

島根県民俗学関連雑誌等目次総覧

松江市史専門委員 山崎 亮 編

解題

島根県は全国的に見ても、早くから民俗研究が盛んな地域であった。1935年、柳田国男の還暦記念に開催された「日本民俗学講習会」を契機として全国的に民俗研究の気運が高まるなかで⁽¹⁾、島根県ではいち早く1938年に、石見部の牛尾三千夫らを中心として「島根民俗学会」が結成されている。第二次世界大戦前後の混乱のなかでその活動は一時中断するものの、1947年には活動を再開、さらにその翌々年には出雲部の石塚尊俊を中心として「出雲民俗の会」が結成され、1954年からは「山陰民俗学会」と名称を変え、現在に至るまで活発な研究活動を継続している。

そもそも島根県は、出雲、石見、隠岐いずれの地域においても、独自の民俗⁽²⁾が豊かに重層しており、たとえば宮本常一や和歌森太郎など中央の著明な研究者も数多く調査に来訪する⁽³⁾、いわば民俗の宝庫であった。しかしながら、そのような宝庫にあって民俗研究を実質的に支えていたのは、地元の学会に所属する研究者たちによる地道な活動であった。本稿が提示するのは、そのような在地の研究者たちの、70年以上に及ぶ研究蓄積の全体像である。

私は、『松江市史 民俗編』の宗教民俗の部分を担当しているが、執筆に向けての調査・研究の過程で、従来の研究蓄積の探索がきわめて困難な状況に直面した。島根県下の民俗研究に係る主な雑誌は、「島根民俗学会」による『島根民俗』（1938年創刊）と『島根民俗通信』（1947年創刊）、「出雲民俗の会」による『出雲民俗』（1949年創刊）、「山陰民俗学会」による『山陰民俗』（1954年創刊）と『傳承』（1959年創刊）、ならびに『山陰民俗研究』（1995年創刊）の6誌であるが、それぞれの創刊、休刊、廃刊の経緯が複雑であり、またとりわけ当初の3誌はほとんど稀覯本の状態にあるため、その内容を通覧することはきわめて困難である。すべての雑誌を全巻所蔵する——現物がなくコピーのみのも含む——島根県立図書館のウェブ上でも、その目次の内容は部分的に検索できるだけであり、『島根民俗』に至っては情報は皆無である。他方で山陰民俗学会では、『島根民俗通信』以降『傳承』に至るまでの4誌から、テーマ別に論考をピックアップして再編した『山陰民俗叢書』全12巻を、1995年から2000年にかけて刊行しているが、これによっても研究蓄積の全体像を窺うことは困難である。もとより、一般の読者の眼にはほとんど触れることのない古い論考が手軽に読めるようになった点は大きな前進だが、そもそもテーマ別の分類では通時的な視点の移り変わりが見えにくく、また取り上げた論考の選択基準も明確ではない。新たにこの総目録を公にしようとする所以である。

本稿では、上述の6誌と、これに準じて各学会によって公にされた刊行物の目次を、以下の順に網羅する。

I 「島根民俗学会」による刊行物

- 1 『島根民俗』 1.1-6, 2.1-6, 附録 (1938-40)
- 2 島根民俗學會『民俗とその資料 島根民俗叢書第1輯』(1941.7)

- 3 『島根民俗』再刊 第1輯 (1942.1)
- 4 『島根民俗』復刊 1-2 (1950-51)
- 5 島根民俗学会編『山陰の民俗』島根新聞社(1948.7)

II 「島根民俗通信部」による刊行物

- 1 『島根民俗通信』1-8 (1947-48)

III 「出雲民俗の会」による刊行物

- 1 『出雲民俗』1-21 (1949-53)
- 2 出雲民俗の会編『山陰の民俗 第二集』島根新聞社(1949.9)

IV 「山陰民俗学会」による刊行物

- 1 『山陰民俗』1-60 (1954-93)
- 2 『傳承』1-16 (1959-65)
- 3 『山陰民俗研究』1-15+ (1995-2010+)
- 4 山陰民俗学会『中国地方における民俗の地域性』(1999.3)

先にも触れたように、Iの「島根民俗学会」は、牛尾三千夫ら、石見部の民俗研究者が中心となった組織であり、IIの「島根民俗通信部」は、戦後まもなく活動を再開した「島根民俗学会」にあって、編集担当となった石塚尊俊が出雲部の研究者たちを糾合した過渡的な時期にあたる。IIIの「出雲民俗の会」は、「島根民俗学会」から出雲部の研究者たちが独立して創設した組織、IVの「山陰民俗学会」は、「出雲民俗の会」がさらに発展し、石見部はもちろん鳥取県の研究者たちも取り込んで成立した組織である⁽⁴⁾。

戦前の『島根民俗』は、基本的に短い調査報告を多数掲載するという『民間伝承』⁽⁵⁾の体裁をそのまま踏襲していたが、後の雑誌ではこのスタイルは徐々に後退し、論文形式を取る論考が次第に増加していく。また『島根民俗通信』と『出雲民俗』、ならびに『山陰民俗』の初期の号は謄写版刷りであり、目次のタイトルと本文のタイトルとの異同など、齟齬も目立つが、とりわけ1965年から1975年にかけての『山陰民俗』の休刊期間をはさんで、形式的にも内容的にも学術的な体裁が整うようになってくる。一方で、1959年から1965年まで刊行された『傳承』は、随筆なども含めた一般向けの雑誌をめざしており、より専門的な『山陰民俗』との二本立ての刊行体制は、当時の地方の民俗学会としてはきわめてユニークな試みであった。後に、国書刊行会から『傳承』の復刻版が刊行されることになる⁽⁶⁾所以でもあろう。

これらの雑誌・刊行物に掲載された膨大な論考の内容を整理・解説する作業は、さしあたってこの解題の範囲を越えている。これに関しては、とくに戦後の島根県の民俗研究を長年にわたって牽引してきた石塚尊俊によって、総括がたびたび試みられている⁽⁷⁾。あるいは先にも触れた『山陰民俗叢書』の石塚による編纂そのものが、島根県下の戦後の民俗研究を総括する作業だったと位置づけることもできるだろう。ここでは、民俗を実体視する旧来の日本民俗学の枠組によるその総括の是非は問わないまでも、次の一点だけは強調しておきたい。すなわち、戦前から蓄積されてきたこれらの報告・論考は、もとより調査の精粗、考察の深浅において、現在の視点からすれば玉石混濁

であるように見えるとしても、当時の記録として、失われた民俗あるいは民俗の変容を考える上でも、また民俗に対する当時の研究者の視点・眼差しを考える上でも、きわめて貴重な多くの情報を伝えてくれるという点である。この意味において、これら膨大な記録は、島根県下の民俗さらには民俗研究そのものを再考する際の、またとない素材を提供してくれるはずである。

いいかえれば、従来からの民俗学研究の狭い枠組を越えて、多様な視点から島根県の民俗を考え直すことを可能にする、一種の相対化の作業^⑧の第一歩として、まずは在地の研究者たちによる民俗研究の全体像の一端を明らかにし、過去からの貴重な遺産を開かれた共有財産にしようとするのが、本稿のささやかな目的なのである。

註

- (1) この時期の民俗研究に関わる全国的な動向については、たとえば、福田アジオ『日本の民俗学―「野」の学問の二〇〇年―』（吉川弘文館、2009年）の「V民俗学の確立」を参照のこと。
- (2) ここでは民俗という語を、伝統的な生活様式全般を指すものとしておおざっぱにとらえておく。
- (3) その成果の典型的な例としては、たとえば宮本常一『出雲八束郡片岡浦民俗聞書』（アチックミュージアム、1942年）や同『忘れられた日本人』（未来社、1960年）中の「文字をもつ伝承者（一）」、和歌森太郎『美保神社の研究』（弘文堂、1955年）、同編『西石見の民俗』（吉川弘文館、1962年）などを挙げることができる。また、本稿で取り上げる島根県下の民俗学関連雑誌にも、中央からの多くの寄稿者を見出すことができる。
- (4) この間の経緯に関しては、石塚尊俊「山陰における民俗研究の歴史と課題」（『山陰民俗』25、1975年）、同「民俗学会半世紀の回顧―島根民俗通信・出雲民俗・山陰民俗の総括―」（『山陰民俗』60、1993年）、大庭良美「島根県民俗学の夜明け」（『郷土石見』19、1987年）、松本三喜夫「石見国邑智郡と鹿足郡のこと―『島根民俗』と『島根民俗通信』―」「石見国鹿足郡日原村余聞 、『石見日原村聞書』のことなど―大庭良美／聞き手松本三喜夫―」（松本三喜夫『野の手帖―柳田国男と小さき者のまなざし―』[青弓社、1996年]）などを参照のこと。
- (5) 『民間伝承』は、柳田国男を中心に組織された「民間伝承の会」の機関誌として1935年に創刊された全国誌であり、各地から短い調査報告を多数募り、柳田を始めとする中央の研究者がこれを指導することで、多くの在地の民俗研究者の発掘・育成に寄与した。
- (6) 山陰民俗学会編『傳承 上下』（国書刊行会、1981年）。
- (7) 先に註(4)で掲げた以外のものとして、石塚尊俊「山陰地方の民俗研究」（『日本民俗学』200、1994年）、石塚尊俊「地方にいて思う民俗学の過去将来」（『山陰民俗研究』3、1997年）などを参照のこと。
- (8) そのような相対化の視点の例として、註(4)で取り上げた松本三喜夫の論考や、橋本裕之「〔近代〕の復讐―牛尾三千夫の「美しい村」をめぐる―」（『法政人類学』41、1989年）などを挙げることでもできるだろう。さらには以下の拙稿も参照されたい。山崎亮「日本の祭祀組織論―宮座と頭屋制をめぐる―」（島根県古代文化センター調査研究報告書2『島根半島の祭礼と祭祀組織』、1997年）、山崎亮「荒神祭祀論のための覚書―出雲地方を念頭に置いて―」（島根大学教育学部社会科教育研究室編『有馬毅一郎先生退官記念論集 社会科教育実践の新展開』、2002年）、山崎亮「墓上施設の現在―隠岐、対馬、壱岐におけるスヤをめぐる―」（島根県古代文化センター『古代文化研究』13、2005年）、山崎亮「石見地方の「森神」をめぐる―明治初年「神社書上帳」を手がかりに―」（『山陰民俗研究』15、2010年）。

※参考文献

- ・宮本常一『出雲八束郡片句浦民俗聞書』（アチックミュージアム、1942年：『宮本常一著作集39』[未来社、1995年]に再録）
- ・和歌森太郎『美保神社の研究』（弘文堂、1955年：『和歌森太郎著作集3』[弘文堂、1979年]に再録）
- ・宮本常一『忘れられた日本人』（未来社、1960年：『宮本常一著作集10』[未来社、1971年]に再録：岩波文庫、1984年）
- ・和歌森太郎編『西石見の民俗』（吉川弘文館、1962年）
- ・石塚尊俊「山陰における民俗研究の歴史と課題」（『山陰民俗』25、1975年）
- ・大庭良美「島根県民俗学の夜明け」（『郷土石見』19、1987年）
- ・橋本裕之「近代」の復讐—牛尾三千夫の「美しい村」をめぐる—」（『法政人類学』41、1989年：橋本裕之『民俗芸能研究という神話』[森話社、2006年]に再録）
- ・大庭良美「私の民俗学への道」（『山陰民俗』53、1990年）
- ・石塚尊俊「民俗学会半世紀の回顧—島根民俗通信・出雲民俗・山陰民俗の総括—」（『山陰民俗』60、1993年：石塚尊俊『民俗学六十年』[山陰中央新報社、1998年]に再録）
- ・石塚尊俊「民俗学への道」（『国立歴史民俗博物館研究報告』51、1993年）
- ・石塚尊俊「山陰地方の民俗研究」（『日本民俗学』200、1994年）
- ・松本三喜夫「石見国邑智郡と鹿足郡のこと—『島根民俗』と『島根民俗通信』—」「石見国鹿足郡日原村余聞『石見日原村聞書』のことなど—大庭良美／聞き手松本三喜夫—」（松本三喜夫『野の手帖—柳田国夫と小さき者のまなざし—』[青弓社、1996年]）
- ・石塚尊俊「地方にいて思う民俗学の過去将来」（『山陰民俗研究』3、1997年）
- ・石塚尊俊「石塚尊俊 執筆・講演等目録」（私家版、2005年：島根県古代文化センターにて閲覧）
- ・福田アジオ『日本の民俗学—「野」の学問の二〇〇年—』（吉川弘文館、2009年）

※凡例

- ・本稿は、島根県の民俗学関連雑誌、ならびにそれに準ずる刊行物の目次を総覧するものである。島根県立図書館のウェブ・サイトの目録を活用し、さらに現物をすべて確認しているが、なお遺漏あるを恐れる。お気づきの点、お知らせいただければ幸いである。
- ・雑誌等に掲載された論考は、コラムや書評、会告、会員名簿等も含めて網羅することを原則としたが、「編集後記」、「大会記録」の類は割愛した。
- ・〔 〕内は編者による補足である。とくにペンネームで本名の分かるものについては可能な限り補足してある。
- ・表紙や目次での論考のタイトルと論考本文のタイトルが異なっている場合には、後者を採用した。
- ・それぞれの論考名・著者名の前に付された①～⑫までの番号は、その論考が再録された『山陰民俗叢書』（1995-2000）の巻数を示している。①～⑫までの番号の直後の（ ）内には、再録された際に変更された名称を記している。ただ、『山陰民俗叢書』再録時に記載された初出記録には誤りが多いので注意が必要である。なお、『山陰民俗叢書』各巻のタイトルは、本稿末尾の「※関連図書」の項を参照されたい。

I 「島根民俗学会」による刊行物

1 『島根民俗』1.1－6, 2.1－6, 附録 (1938-40)

第1巻第1号 (1938.9)

- ・柳田國男「石見佐次右衛門」 pp.1-4
- ・臼田甚五郎「苗持ち子供素描」 pp.5-7
- ・矢富熊一郎「阿度部ノ磯良傳説考」 pp.8-10
- ・後藤藏四郎「板敷神社の祭式」 p.10
- ・石田春昭「石見方言雜考 (其一)」 pp.10-11
- ・木村晩翠「猿猴に関する三隅地方の傳説と行事」 p.12
- ・「新刊紹介：瀬川清子著『見島聞書』民間傳承の會發行、柳田國男編『海村調査報告』民間傳承の會發行、石川縣圖書館協會編『町村誌編纂の棗』非賣品」 p.12
- ・舟木賢寛「男根石に就いて」 p.13
- ・「大元神樂御崎帳 (牛尾三千夫記)」 p.13
- ・椿貞「飯石郡地方に於ける年中行事」 p.14
- ・千代延尚壽「石州海岸部の年中行事」 pp.14-15
- ・大庭良美「盆踊歌」 p.15
- ・横地満治「天狗さんとヤマト」 p.16
- ・「うぐひす長者 (採集地=邑智郡日貫村：話者=高橋梅吉氏)」 p.17
- ・島根民俗學會「島根民俗の撥刊に就いて」 pp.16-17
- ・牛尾三千夫「大元神樂に於ける中の舞に就いて」 p.18
- ・「佐渡と石見 (千代延記)」 p.18
- ・田中梅治「稲作語彙」 p.19
- ・「人倫語の方言分布 (石田)」 p.19

第1巻第2号 (1938.11)

- ・石田春昭「石見地名考 その一」 pp.1-2
- ・並河太「出雲方言六題」 p.2
- ・大庭良美「よいやなア一鹿足郡日原村畑の民謡 (二) 一」
- ・「會員通信」 pp.4-7
 - 横地満治「隱岐中村地方の子守歌・盆踊・田植歌」 p.4
 - 森脇太一「能義郡母里村地方に行はるゝ田植歌」 pp.4-5
 - 木村晩翠「三瓶の姓に就て」 p.5
 - 岡義重「地名二三」 p.5
 - 中林季高「神原間府の由來」 pp.5-6
 - 千代延尚壽「石州海岸部の年中行事 (二)」 pp.6-7
 - 田中梅治「蚊帳縫ひ」 p.7
 - 岩井肅吉郎「神樂疏談一石見一」 pp.7-8
 - 山根俊久「「えんこう」の話」 pp.9-10
 - 矢富熊一郎「津田盆踊傳來考」 p.8 [p.10の誤り]
 - 牛尾三千夫「さばいがみ」 p.11
- ・「新刊紹介：中山徳太郎・青木重孝共編『佐渡年中行事』民間傳承の會發行」 p.11

第1巻第3号 (1939.2)

- ・牛尾三千夫「正月行事の問題」 p.1
- ・千代延尚壽「石州野鼠一件について」 pp.2-5
- ・山根俊久「「えんこう」の話 (前承)」 p.5
- ・椿貞「童謡二三」 p.5
- ・「會員通信」 pp.6-11
 - 木村晩翠「船唄」 p.6
 - 森脇太一「江津の餅搗唄」 p.6
 - 大庭良美「白挽き歌一鹿足郡日原村畑の民謡 (三) 一」 p.6
 - 中林季高「光明寺の梵鐘に付て」 pp.6-7
 - 並河太「背」 p.7
 - 田中梅治「稲作語彙 其二」 p.7
 - 栗山一夫「農耕技術の調査に就いて」 p.8
 - 石田春昭「サコとエゴ」 pp.9, 11
 - 岡義重「年中行事」 p.10
 - 矢富熊一郎「津田盆踊傳來考 (前承)」 pp.10-11

第1巻第4号 (1939.4)

- ・小林存「三瓶といふ姓のこと」 p.1
- ・「會員通信」 pp.2-10
 - 大庭良美「節分のこと」 p.2
 - 水師重吉「船唄と神謡」 p.2
 - 佐草正雄「背に就いて」 pp.2-3

- 木村晚翠「褒め口上」 p.3
- 中林季高「富豪木次屋」 p.3
- 椿貞「虫に關する童謠」 pp.3-4
- 藤原篤男「サコとエゴ」 p.4
- 森脇太一「どんとぶし」 p.4
- 牛尾三千夫「昔話三篇」 pp.5-6
- 岡義重「年中行事一簸川郡伊波野村一」 p.6
- 山根俊久「石見窯業語聚」 pp.6-8
- 田中梅治「稲作語彙（三）」 p.8
- 矢富熊一郎「津田盆踊傳來考（前承）」 pp.8-9, p.12
- 湯淺茂武「大元神樂神名帳」 p.10
- ・「歌謠特集に就いて（編輯部）」 p.10
- ・「質疑應答欄」 p.11

第1卷第5号「歌謠特輯」（1939.6）

- ・藤田徳太郎「民謠の移動」 p.1
- ・「會員通信」 pp.2-17
 - 松浦静麿「皆一踊の歌」 p.2
 - 横山彌四郎「ゑびす祭りの日の歌その他」 p.2
 - 横地満治「せり唄」 p.2
 - 牛尾三千夫「隠岐島の民謠」 pp.3-5
 - 佐草正雄「蒼柴籬神事粉碎歌」 p.5
 - 朝山皓「佐陀浦江角の漁師歌」 p.5
 - 後藤藏四郎「松江の大黒舞の一段」 pp.5-7
 - 並河太「能義郡廣瀬町歌謠集」 p.7
 - 中林季高「俚謡通信一大原郡加茂町一」 pp.7-8
 - 小瀧遙「鑪歌の二三」 p.8
 - 岡義重「出雲斐伊川下流の童謠」 pp.8-16
 - 三上鎮博「橋の下の菖蒲一童謠一」 p.9
 - 田中梅治「民謠と童謠と」 p.9
 - 湯淺茂武「大元神樂かぐら歌」 pp.9-10
 - 牛尾三千夫「民謠採集手帖から」 pp.10-12
 - 森脇太一「麥打唄など」 pp.12-13
 - 飯田哲朗「きさらぎやま二篇」 p.13
 - 木村晚翠「踏鞴唄と音頭」 p.14
 - 大庭良美「麥搗唄」 pp.14-15
 - 矢富熊一郎「口説歌記」に就いて pp.15-17
 - 椿貞「サンバイ」に就て p.17
 - 朝山皓「田植歌について教を乞ふ」 p.17
- ・「明治拾五年春四月吉日 多卯惠宇多盆記 邑智郡三原村高田政一郎藏（牛尾三千夫記）」 pp.18-19

第1卷第6号（1939.8）

- ・白田甚五郎「杵差論一心着くまゝ一」 pp.1-4
- ・石田春昭「金屋子縁起鈔」 p.4
- ・牛尾三千夫「旅早乙女の事」 p.5
- ・「會員通信」 pp.6-11
 - 横地満治「徳川時代に於ける結婚手續調査資料」 pp.6-7
 - 椿貞「をとみの水」 p.7
 - 森脇太一「俗信の二三」 p.7
 - 牛尾三千夫「このはぶみ」 p.7
 - 堤榮花「天人女房」 pp.8, 11
 - 田中梅治「冠婚葬祭の儀禮に就いて」 p.8
 - 矢富熊一郎「石州野鼠一件附記」 p.8
 - 多田知敏「三瓶姓について」 pp.9-10
 - 大庭良美「えんこうの話」 p.10
 - 水師重吉「木遣歌その他」 p.10
 - 田中梅治「稲作語彙四」 p.11
 - 八幡静男「田植歌一隠岐國五箇村一」 p.11
- ・湯淺茂武「大元神樂神名帳其三」 pp.11-12
- ・「新刊紹介：農村更生協會「稗叢書」に就いて（牛尾三千夫）」 p.12

第2卷第1号（1939.10）

- ・西角井正慶「神樂と人形」 pp.1, 11
- ・牛尾三千夫「民俗に於ける美の問題」 pp.2-4
- ・山田次三「白い椿の下」 p.5

- 「會員通信」 pp.6-12
 - 谷垣義雄「水無瀬神宮に於ける松囃神事（俗稱サンヤレ）」 p.6
 - 横地満治「隠岐國の雨乞ひ」 pp.6-7
 - 矢富熊一郎「狗の憑物」 pp.7-8
 - 山田次三「ツユザエモンサンのこと」 p.8
 - 大庭良美「昔のはなし（一）一七十五と七十になる伯父夫妻の話一」 pp.8-9
 - 中林季高「大原郡人口の變遷」 p.9
 - 岡義重「年中行事一簸川郡伊波野村一」 pp.9-10
 - 田中梅治「稲作語彙五」 pp.10-11
 - 堤榮花「希妙といふ舞」 pp.11-12
- 「紹介と批評と：鈴木棠三編『佐渡昔話集』民間傳承の會發行、『昔話の研究 藝備叢書第二輯』廣島師範學校郷土室刊行、江馬三枝子著『飛騨と稗飯』農村更生協會發行、雑誌『出雲』大社教東京分祠内大社學生會發行（堤榮花記）」 pp.6-9
- 「會合記（水師重吉記）」 pp.10-11
- 「第一卷總目次」 pp.13-16
- 湯淺茂武「大元神樂神名帳其四」 p.16

第2卷第2号（1940.1）

- 鈴木棠三「神在月の問題」 pp.1-2, 4
- 瀬川清子「北濱村の若者（島根縣簸川郡）」 pp.3, 5
- 宮本常一「旅信」 p.4
- 大庭良美「昔のはなし（二）」 p.5
- 「資料★會員通信」
 - 朝山皓「盗人石の話」 p.6
 - 木村晚翠「田園小話一數則一」 pp.6-7
 - 花田直幸「大元神社託舞」 p.7
 - 水師重吉「龍神祭」 p.8
 - 中林季高「義田考」 pp.8-9
 - 矢富熊一郎「高島の聖樹」 pp.9-10
 - 森脇太一「祖式侯の寶劍」 pp.10-11
 - 田中梅治「稲作語彙」 p.11
 - 田中梅治「昔の子供の遊び言葉」 p.11

第2卷第3号（1940.4）

- 山田次三「一地方學徒として」 pp.1, 6
- 牛尾三千夫「古海の一夜」 pp.2-5, 9
- 大庭良美「昔のはなし（三）」 pp.5-6
- 佐草正雄「門と戸口」 pp.7-8
- 田中梅治「藤布」 p.8
- 森脇太一「亥の子の祝言葉」 p.8
- 矢富熊一郎「紙漉重寶記」に現はれた石見方言に就いて」 pp.8-9
- 花田直幸「二宮村派サントウ氏」 pp.10-11
- 「島根民俗第二卷第一號・第二號目次」 p.12

第2卷第4号「田植特輯」（1940.8）

- ①柳田國男「日本を知る為に」 pp.1-3
- 早川孝太郎「さんばいのことなど」 pp.4-7
- 本田安次「奥羽の田植神事」 pp.7-8
- 鈴木棠三「田唄斷章」 pp.8-12
- 水師重吉「出雲大社田植神事」 p.12
- 白田甚五郎「翁・田主・田神・翁」 pp.13-19
- 三田村耕治「近江高島郡川上村構の田植」 pp.20, 33
- 能田多代子「田植と其語彙（青森縣五戸町近在採集）」 pp.21-24
- 江馬三枝子「飛騨の田植唄」 p.24
- 宮本常一「田植二例」 pp.25-26
- 小玉曉村「奥羽の田うゑ」 pp.26-27
- 大庭良美「昔のはなし四」 pp.28-29
- 朝山皓「佐太神社の田植祭」 pp.30-31
- 佐草正雄「關參り」 pp.31-32
- 岡義重「田植神事」 pp.32-33
- 小瀧遙「田植聞書一出雲飯石郡吉田村一」 pp.33-34
- 中林季高「田植小感」 p.34
- 森脇太一「六日市稲作語彙」 pp.35-36
- 横地満治「舊時代に於ける隠岐の田植に關する事柄」 pp.36-37
- 田中梅治「稲作語彙七」 p.37

- ・堤榮花「田植料理」 pp.37, 43
- ・牛尾三千夫「田唄のこと」 pp.38-42
- ・田中梅治「五十年前の田植」 pp.42-44

第2巻第4・5・6号附録（1940.8）

- ・瀬川清子「ソリコの事」 pp.1-5
- ・花田直幸「二宮村派サントウ氏（二）」 pp.5-8

2 島根民俗學會『民俗とその資料 島根民俗叢書第1輯』（1941.7）

- ・大庭良美「昔の子供一七十七と七十三になる伯父夫妻の話から一」 pp.3-8
- ・山田次三「ゲドーのことなど一備後北部地方一」 pp.9-13
- ・水師重吉「松尾神社古傳神事」 pp.14-16
- ・朝山皓「神在祭について」 pp.16-20
- ・佐草正雄「縁結の信仰」 pp.21-25
- ・沖本常吉「吉賀地方に於ける木地屋資料」 pp.25-31
- ・森脇太一「狐の話」 pp.31-35
- ・津戸千代次郎「楯縫地方に於ける年中行事」 pp.36-40
- ・牛尾三千夫「田植とその禁忌」 pp.41-47
- ・花田直幸「西方寺の過去帳から」 pp.47-50
- ・山根雅郎「市場の左義長」 pp.51-52

3 『島根民俗』再刊1（1942）

第1輯（1942.1）

- ・臼田甚五郎「竈神譚」 pp.4-17
- ・金子總平「鮮満熊探訪記」 pp.18-24
- ・沖本常吉「西石見のレブラ分布一血族結婚地帯と蒟蒻地帯一」 pp.25-33
- ・松浦静麿「「どっさり」節に就いて」 pp.34-39
- ・牛尾三千夫「さんばいの性格とその祭式」 pp.40-70
- ・横地満治「隠岐国の葬儀について」 pp.71-75
- ・四宮守正「諸喰探訪記」 pp.76-80
- ・佐草正雄「身隠神事」 pp.81-84
- ・椿彌太郎「出産と育児」 pp.85-87
- ・岡義重「童戯抄（簸川郡伊波野村）」 pp.88-92
- ・水師重吉「子供の遊び一こども風土記を中心として一」 pp.93-96
- ・大庭良美「食べものことなど一七十七と七十三になる伯父夫妻の話から一」 pp.97-104
- ・「苅田村本御哥雙紙（牛尾三千夫）」 pp.105-120
- ・「安藝灘田資料（翻刻）一岡熊臣の紀行「若葉の雫」より抄出一（沖本常吉）」 pp.121-122
- ・「玖可組田植歌（翻刻）一吉川子爵家蔵本寫本玖珂郡志所収一」 p.123

4 『島根民俗』復刊1-2（1950-1951）

第1号（1950.8）

- ・「復刊にあたって（牛尾三千夫記）」 p.1
- ・大藤時彦「田の神のことから」 pp.2-5
- ・興茂利「奄美大島の信仰問題一宇檢村大字宇檢を中心として一」 pp.5-9
- ・牛尾三千夫「山入木のことなど」 pp.9-10
- ・山根雅郎「大社の婚姻」 pp.11-13
- ・水師重吉「葭津のモット」 pp.13-14
- ・森脇太一「濱田地方魚方言」 pp.15-16

第2号（1951.2）

- ・倉光清叟「「出雲」の神祭（序説）」 pp.1-6
- ・興茂利「奄美大島の信仰問題（承前）一宇檢村大字宇檢を中心として一」 pp.7-12
- ・牛尾三千夫「大元神楽式に於ける神懸りに就いて」 pp.13-15

5 島根民俗学会編『山陰の民俗』島根新聞社（1948.7）

- ・石塚尊俊「炬火の明」 pp.3-4
- ・石塚尊俊「こよりの着物」 pp.4-5
- ・池田弘子「ぼてぼて茶」 pp.5-7
- ・水師重吉「すなどり船」 pp.7-9
- ・牛尾三千夫「大田植」 pp.9-11
- ・沖本常吉「木地屋部落」 pp.11-13
- ・水師重吉「村の組織」 pp.13-14
- ・山口壽々栄「婿のすり逃げ」 pp.14-15
- ・山口壽々栄「児やらい」 pp.15-17
- ・牛尾三千夫「埋墓と本墓」 pp.17-18

- 山根雅郎「正月と盆」 pp.18-20
- 山根雅郎「花祭りと亥の子」 pp.20-21
- 牛尾三千夫「祭りと神樂」 pp.21-23
- 岡義重「子供の遊び」 pp.23-25
- 池田弘子「出雲弁・昔話」 pp.25-28
- 馬庭克吉「かどな祝い」 pp.28-29
- 池田弘子「田唄」 pp.29-31
- 石塚尊俊「こいに居る」 pp.31-32
- 石塚尊俊「狐つき」 pp.32-34

II 「島根民俗通信部」による刊行物

1 『島根民俗通信』 1 - 8 (1947-48)

第1号 (1947.9)

- ・「発刊の辞」 p.1
- ・牛尾三千夫「挨拶として」 p.2
- ・山根俊久「要らざる言」 p.3
- ・「島根往来」 p.3
- ・石塚尊俊「日本民俗學への願ひ」 pp.4-6
- ・「資料」水師重吉「お客講」 p.6
飯塚純平「みみげの神事その他」 p.6
岡義重「ねこはげばあじ」 p.7
- ・「学界消息 終戦後二年」 p.8

第2号 (1947.11)

- ・「島根民俗學會々則」 p.1
- ・大梁灰儿 [千家尊統]「水祭と火祭」 p.2
- ・田中豊治「隱岐中村の日月祭」 p.3
- ・④馬庭克吉「カドナ祝ひ」 p.4
- ・沖本常吉「民俗雜資料」 p.5
- ・④(「垣内小篇」)「垣内調査」 p.5
- ・「學界消息」 pp.6-7
- ・「會員名簿」 pp.6-7
- ・「島根往来」 p.8

第3号 (1948.1)

- ・朝山皓「釜ばらひ」 pp.1-2
- ・「消息往来」 p.2
- ・田中豊治「隱岐中村の日月祭 (承前)」 pp.3-4
- ・堀井度「お供へ考」 pp.4-5
- ・④(「弓浜部における谷の名稱」) 土屋長一郎「弓浜部に於ける谷の稱呼」 pp.5-6
- ・④(「垣内について」) 中林季高「垣内に付て」 p.7
- ・④(「ガーチについて」) 岸田儀平「ガーチに就て」 p.7
- ・「『憑き物』調査 (共同課題)」 p.7
- ・「島根民俗放送」 p.7
- ・沖本常吉「鉦文書 (承前)」 p.8
- ・「島根民俗既載論文及資料」 p.9
- ・「音信抄報」 p.10

第4号 (1948.3)

- ・和歌森太郎「社会科と民俗學」 pp.1-2
- ・「地方學界」 p.1
- ・石塚尊俊「憑物の問題」 p.3
- ・堀井度「憑物調査 (伯耆米子附近)」 p.4
- ・土屋長一郎「憑物調査 (出雲大原郡木次町)」 p.4
- ・岸田儀平「憑物調査 (石見鹿足郡日原町)」 pp.5-6
- ・沖本常吉「憑き物二圖」 pp.6-7
- ・田中豊治「隱岐中村の日月祭」 p.8
- ・岡義重「食ふ言葉」 p.8
- ・「島根民俗既載論文及資料 (承前)」 pp.9-10
- ・「島根往来」 p.10

第5号 (1948.4)

- ・④関敬吾「民間醫學の問題」 pp.1-2
- ・⑦(「伯耆日吉津採訪記」) 山根雅郎「日吉津採訪記」 p.2
- ・馬庭克吉「大呂覺書」 p.3
- ・「消息通信」 p.4

第6号 (1948.6)

- ・④丸山久子「子どもを守る神」 pp.1-3
- ・「地方学会」 p.1
- ・「島根往来」 pp.3-4

第7号 (1948.8)

- ・大梁灰儿 [千家尊統]「耳塞餅異説」 pp.1-3
- ・堀井度「蟻地獄寸言」 p.3

- ・「新刊紹介」 p.4

第8号 (1948.10)

- ・「終刊の辞 (石塚尊俊記)」 p.1
- ・①柳田國男「ミカハリ考の試み」 pp.2-5
- ・⑥(「家の神の祭り」) 大藤時彦「家の神の祀り」 p.6
- ・⑦(「八日おやき」) 山根雅郎「八日オヤキ」 p.7
- ・⑦(「お忌みさんその他—能義地方—」) 飯塚チカヨ「からさでその他」 p.7
- ・山本宇迦人「千家尊統」 「塞の神と縁結び」 pp.8-9
- ・朝山皓「岡見八幡の御祭神」 pp.10-11, 16
- ・堀井度・樋口一男「田下駄と竹馬」 pp.12-13
- ・岡義重「思出の遊び」 p.13
- ・③(「島根半島塩津の四つ張網」) 井塚忠・勝部淳二「北濱村採集覺書」 pp.14-15
- ・岩崎敏夫「東北民俗だより 民俗學への道」 pp.16-17
- ・「島根民俗通信總索引」 p.17
- ・「會員名簿」 p.20

Ⅲ 「出雲民俗の会」による刊行物

1 『出雲民俗』 1-21 (1949-53)

創刊号 (1949.1)

- ・ [表題・記名なし。「出雲民俗の会」発足の経緯] p.1
- ・ 馬庭克吉「屋敷の研究」 pp.1-4
- ・ 岡義重「カドナ資料」 p.5
- ・ 池田俊雄「台湾の阿也都古」 pp.6-7
- ・ 「垣内調査」 p.8

2号 (1949.2)

- ・ 岡義重「焼米その他」 p.1
- ・ 「共同調査」 p.1
- ・ 石塚尊俊「民俗学に於ける「常民」の規定」 pp.2-3
- ・ ⑥竹田旦「水神研究の課題—特に「河童」の占める位置と関連して—」 pp.4-6
- ・ 樋口一男・井塚忠「両墓制資料」 pp.6-8
- ・ 「消息後記」 p.8

3号 (1949.3)

- ・ 稲浦生 [千家尊統]「稲作呪術—杵那築の森と千本松の森—」 p.1
- ・ 山根雅郎「同族荒神」 pp.2-3
- ・ 岡義重・石塚尊俊「荒神資料」 p.3
- ・ 井塚忠「荒島村両墓制補遺」 p.3
- ・ 蓮仏重寿「焼米その他」 p.4
- ・ 石塚尊俊「鍛冶聞書抄」 pp.4-5
- ・ 「共同調査—狐憑の研究—」 pp.6-7
- ・ 「消息後記」 p.8

4号 (1949.5)

- ・ 鉄脚梨 [千家尊統]「有賀さんの「村落生活」を読む」 p.1
- ・ 能田多代子「五戸月山正八幡宮—鍛冶神の一資料—」 pp.2-3
- ・ さざなみ生 [石塚尊俊]「出雲赤名八幡宮縁起」 pp.3-4
- ・ 堀井度「ミミズに小便をかけるとチンコが腫れる話その他」 pp.4-5
- ・ 岡義重「須佐から—正月行事その他—」 p.5
- ・ 「原稿募集—「山陰の民俗」第二集」 [頁表記なし]

5号 (1949.7)

- ・ 石塚尊俊「衛生教育と民俗学」 p.1
- ・ 小林存「ミミズに小便をかけるとチンコが腫れる話について」 p.2
- ・ 堀井度「ミミズに小便の稿再説」 pp.3, 8
- ・ 朝山皓「資料—灘の祭」 pp.4-5
- ・ 雲鶴山人 [千家尊統]「民俗雑談」 p.5
- ・ 「名簿」 pp.6-7

6号 (1949.8)

- ・ 堀井度「蝮と青大将と縞蛇」 pp.1-2
- ・ 全愚耳 [千家尊統]「紋」 p.2
- ・ ⑦ (「出雲須佐の盆」) 岡義重「須佐の盆」 p.3
- ・ ④岡義重「垣内」 p.3
- ・ 桑原視章「モバの入札」 p.4
- ・ 蓮仏重寿「地名二三」 p.4

7号 (1949.10)

- ・ 馬庭克吉「民俗学と郷土研究と」 pp.1-2
- ・ 石塚尊俊「農村労力の行方」 pp.2-3
- ・ 吉田稔「須佐のダヨセ」 p.4
- ・ 「新刊紹介：岩田正俊著『人狐—伝説とその正体』、民俗学研究所校閲出雲民俗の会編『山陰の民俗』第二集」 p.4

8号「狐憑特輯」(1949.11)

- ・ 「特輯の辭」 p.2
- ・ 「人狐物語 (抄) (岡義重校訂)」 p.3
- ・ 大藤時彦「狐憑き研究の意義」 pp.4-6
- ・ 石塚尊俊「狐憑研究覚書」 pp.6-10
- ・ 岡義重「人狐物語解説」 p.11
- ・ 樋口一雄・佐々木一雄・松本興・堀井度・菅野清・松崎清・岡義重・馬庭克吉・桑原視章・石塚尊俊「狐・狐持・狐憑調査」

- 「一、狐」 p.12
- 「二、狐持」 pp.12-15
- 「三、狐憑」 pp.15-16

- ・馬庭克吉「数字的に見た持筋の実態—出雲簸川郡X村に於ける—」 pp.17-19
- ・「人狐辨惑談（抄）」「廣瀬の狐蠱（紫芝園温筆）」「頓病松・蛇神（伊豫西城誌）」[資料] p.19
- ・竹川文一「出雲山間部に於ける生靈憑きの話—私の家の告白—」 pp.20-22
- ・山崎英穂「狐を落す話」 pp.22-23
- ・岩田正俊「人狐の動物学的検討」 pp.24-25
- ・堀井度「狐憑の精神医学的所見」 pp.26-27
- ・「横山狐（諸國里人談）」 p.27

9号（1950.1）

- ・菅野清「荒神さん」 p.1
- ・「（伊智のこと）（石塚尊俊）」 p.1
- ・雲鶴山人 [千家尊統]「鏡餅は神の依代—民俗雑談二—」 pp.2-4
- ・岡義重「兆占禁呪—飯石郡西須佐村—」 pp.5-7
- ・「音信抄（柳田先生、堀一郎氏、早川孝太郎氏、沖本常吉氏、山口壽々栄女史）」 p.8

10号（1950.3）

- ・竹川文一「イナリガデナイヨ—生靈—」 pp.1-3
- ・「学界消息」 pp.1, 6-8
- ・蓮佛重壽「狐つきととうびょう狐」 pp.4-5

11号（1950.5）

- ・石塚尊俊「鍛冶神の信仰」 pp.1-3
- ・「柳田先生著作目録—除重版—」 pp.4-5
- ・「共同調査—禁忌習俗—」 p.5
- ・田中新次郎「とうびょう憑き」 p.6
- ・飯塚純平「田植を忌む日」 p.6
- ・山田野太郎 [千家尊統]「マツカ」 p.6

12号（1950.7）

- ・石塚尊俊「金屋子信仰の傳承者としての金屋の問題—その出據と語義—」 pp.1-3
- ・山田野太郎 [千家尊統]「三角形のニギリ飯」 pp.4-6
- ・④馬庭克吉「若連中資料」 pp.6-7
- ・「消息」 p.7
- ・「禁忌習俗採集要項」 p.8

13号（1950.9）

- ・山田野太郎 [千家尊統]「今宮のつんぼエビス」 pp.1-2
- ・石塚尊俊「海村儀礼—簸川郡佐香村坂浦—」 p.2
- ・③（「中海の櫓舟—ソリコ・ヒラタ・サンマイゾコ・カンコー—」）堀井度「中海のロブネ」 pp.3-7
- ・松崎清「山村通信」 p.8

14号「年頭行事特集」（1952.2）

- ・[表題・記名なし。会の活動中断・再開の経緯と特集の主旨] pp.1-2
- ・⑦石塚尊俊「歳神とその祭儀—出雲を中心に山陰における—」 pp.3-12
- ・⑦（「出雲仁多郡横田地方の正月」）松崎清「年頭習俗語彙—仁多郡横田町—」 pp.12-13
- ・安田春子「予兆資料—邑智郡祖式村—」 p.14
- ・堀井度「禁忌断片」 p.15
- ・岡義重「熊子のからはたぎ」 p.15

15号「民間信仰特集」（1952.5）

- ・岡義重「雲陽誌（享保二年黒澤長尚撰）所収の叢祠」 pp.2-5
- ・⑥石塚尊俊「サエの神研究覚書」 pp.6-15
- ・「堀一郎著『民間信仰』」[新刊紹介] p.15
- ・⑥（「神棚調査小報告」）「共同課題屋内神」 pp.16-18
 - 長岡莊三「出雲簸川郡佐香村」 p.16
 - 杉谷利市「出雲簸川郡莊原村」 p.16
 - 壺倉正紀「石見安濃郡波根東村」 pp.16-17
 - 小脇清「隠岐海士郡海士村」 pp.17-18
 - 石塚尊俊「伯耆東伯郡矢送村」 p.18
- ・松崎清「山村時令—仁多郡横田町—」 pp.16-18
- ・⑥馬庭克吉「簸川平野の塚さん」 p.19
- ・「共同課題—荒神信仰—」 p.20

16号「葬制と盆行事特集」(1952.8)

- ・⑦(「精霊祭と吉事盆」)石塚尊俊「精霊祭と吉事盆—山陰地方における聞き書き—」pp.2-5
- ・⑦(「平田市小伊津の盆」)長岡莊三「小伊津の盆」p.5
- ・⑤山根雅郎「山陰における喪屋の遺制」p.6
- ・⑤長岡莊三「親族葬・同齡感・流灌頂—出雲小伊津浦—」p.7
- ・⑤岡義重「キノが悪いこと—簸川郡伊波野の葬制禁忌—」p.7
- ・③(「農耕伝承—伯耆所子村」)堀井度「農耕伝承—伯耆所子村に於ける—」pp.8-10
- ・岡田初市「乙見神社と雨乞い—石見馬路村—」p.10
- ・蓮佛重壽「サイの神」p.11
- ・朝山皓「サシビの木」p.11
- ・「学界近況」p.12

17号「諸職の民俗特集」(1952.11)

- ・「諸職の研究」p.2
- ・③草光繁「秋鹿杜氏」pp.3-8
- ・石塚尊俊「村下の技術」pp.9-13
- ・岡義重「なばえ師—西須佐上宮原角森老人の話—」p.13
- ・雲鶴山人「千家尊統」[民俗随感]p.13
- ・千家遂彦「出雲信仰と御師の廻國」pp.14-17
- ・「遊行神人・芸能人・乞巧人」pp.18-24
 - ・蓮佛重壽「餅もらいなど—因幡八頭郡—」pp.18-21
 - ・岡義重「ほがいが来る者—出雲簸川郡—」pp.21-22
 - ・沖本常吉「初春のほがい人—石見鹿足郡—」pp.22-24
- ・堀井度「特殊部落聞書」pp.24-26
- ・「学界近況—承前」p.27
- ・「さんいん抄」p.28

18号「荒神信仰」(1953.2)

- ・「開白」[頁表記なし]
- ・「荒神信仰研究序」[石塚尊俊] p.1
- ・⑥蓮佛重壽「氏神と荒神—因幡八頭郡国英村を中心に—」pp.2-6
- ・⑥壺倉武蔵郎「石見安濃郡の地主神」p.6
- ・石塚尊俊「地荒神の拡大—出雲簸川平野に於ける試み—」pp.7-11
- ・⑥田中新次郎「因伯の荒神」p.12
- ・⑥堀井度「伯耆西伯郡荒神雜記」pp.13-14
- ・⑥(「西伯郡大国村の荒神祭」)土屋長一郎「伯耆西伯郡大国村荒神祭聞書」pp.15-16
- ・⑥井塚忠「出雲能義郡の荒神」pp.16-17
- ・⑥(「能義郡荒島村の荒神」)島田成矩「出雲能義郡荒島村荒神調査」pp.17-18
- ・⑥(「簸川郡諸方荒神聞書」)岡義重「出雲簸川郡諸方荒神聞書」pp.19-20
- ・⑥(「飯石郡三刀屋町の荒神」)石田隆義「出雲飯石郡三刀屋町大谷部落の荒神」p.20
- ・⑥小脇清「隱岐島荒神調査」pp.20-21
- ・⑥(「岡山縣北部の荒神信仰—山陰地方との対照資料として—」)三浦秀宥「岡山縣北部に於ける荒神信仰の概況—山陰地方との対照資料として—」pp.22-25
- ・「次号予告 狐持狐憑号についてのご願い」[頁表記なし]

19号「狐持狐憑」(1953.5)

- ・「開白」[頁表記なし]
- ・「狐持狐憑研究序」[石塚尊俊] p.1
- ・瀬川清子「出雲の狐持その他」pp.2-3
- ・石塚尊俊「出雲に於ける持筋の実態—特にその入村時期について—」pp.4-11
- ・小脇清「隱岐島における狐持の分布と系統」pp.12-14
- ・田中新次郎「因伯における狐憑の問題と実話」pp.15-17
- ・堀井度「狐憑きの発生因子に関する研究」pp.18-25
- ・新福尚武「「狐つき」において不思議だと云われる現象とその心理的発生機転」pp.26-29
- ・「民間医学調査要項」p.30
- ・「月刊『民間傳承』六人社発行、岩崎敏夫著『日本の年中行事—磐城編—』、月刊『芸能復興』演劇博物館発行、朝山・山本・石塚共著『出雲叢話』第一輯」[新刊紹介。頁表記なし]

20号「民間醫術」(1953.8)

- ・④(「民間醫術特集 開白」)「開白」p.1
- ・④堀井度「民間醫術概説—An Outline of the Folk-medicine—」pp.1-13
- ・④「呪いと医療小報告」pp.14-15
 - ・野坂久子「石塚尊俊」[能義郡安来町]
 - ・長岡莊三「簸川郡佐香村」
- ・④(「簸川郡大社町」)山根雅郎「簸川郡大社町の呪いと医療」p.15

- ・④（「簸川・飯石郡地方療法覚書」）岡義重「簸川飯石地方療法覚書」pp.16-17
- ・④蓮佛重壽「醫療漫言」pp.18-23
- ・「文献紹介」[民間医術関係：石塚尊俊] p.24
- ・「共同課題 忌の日調査」[頁表記なし]
- ・「新刊紹介：季刊『日本民俗学』第一号、和歌森太郎著『日本民俗学』」[頁表記なし]

21号「日忌信仰」(1953.11)

- ・「開白」[頁表記なし]
- ・朝山皓「神名火山の祭儀—続神在祭について—」pp.1-3
- ・石塚尊俊「お忌み諸社の成立」pp.4-11
- ・「神在祭各社の傳承」pp.12-19
 - ⑧水師重吉・山根雅郎「出雲大社とその周辺」p.12
 - 「朝山神社（朝山村史）」p.12
 - ⑧朝山皓「佐太神在祭」pp.13-17
 - 「賣豆紀社（雲陽誌）」p.17
 - ⑧（「神魂神社の神在祭」）秋上武雄「神魂神社（大庭大宮）」p.18
 - ⑧岡義重「多賀明神と万九千社」pp.18-19
 - ⑦（「からさで婆の話」）山根雅郎「からさで婆」pp.20-21
- ・「日忌調査報告」pp.22-25
 - 蓮佛重壽「因幡八頭郡国英村」pp.22-23
 - 岡田治道〔石塚尊俊〕「出雲簸川郡久木村」p.23
 - 井塚忠「出雲能義郡布部村」p.23
 - 島田成矩「出雲能義郡荒島村」pp.23-24
 - 青山康次「出雲八束郡江角浦の日の忌と行為の忌」pp.24-25
 - 小脇清「隠岐島各地」p.25
 - 竹縄定二郎〔石塚尊俊〕「石見鹿足郡蔵木村」p.25
- ・「折口信夫先生」[訃報] p.26
- ・「會告—山陰民俗学会への飛躍の件—」[頁表記なし]

2 出雲民俗の会編『山陰の民俗 第二集』島根新聞社（1949.9）

- ・財団法人民俗学研究所「校閲の記」p.2
- ・岡義重「五昔以前」pp.3-6
- ・③福島和夫「檜皮師」pp.6-8
- ・石塚尊俊「もやい島」pp.8-15
- ・馬庭克吉「しぎ」pp.15-17
- ・田中新次郎「婿いじめ」pp.17-19
- ・井塚忠「捨墓と石碑墓」pp.19-21
- ・岡義重「田と田の神」pp.21-27
- ・山根雅郎「こんこ」pp.27-29
- ・蓮佛重壽「民間薬」pp.29-31
- ・山根俊久「★附録★出雲俚諺の断片」pp.31-34

IV「山陰民俗学会」による刊行物

1『山陰民俗』1-60(1954-1993)[1号から24号までは表紙に「季刊」の表示あり]

1号(1954.2)

- ・「巻頭言(石塚尊俊誌)」p.1
- ・大藤時彦「山陰民俗に望む一資料と問題一」pp.4-5
- ・堀一郎「新たなる風土記として」pp.5-6
- ・千葉徳爾「山陰における課題」pp.6-7
- ・牧田茂「文献資料の取扱い」pp.7-8
- ・⑧祝宮静「神社経済と民間伝承—出雲隠岐地方の祭費慣行を通じて—」pp.9-10
- ・田中新次郎「東山陰(特に因伯)の民間伝承」pp.10-13
- ・山根雅郎「出雲における荒神信仰の地方差」pp.14-15
- ・堀井度「四つの希望」p.15
- ・石塚尊俊「山陰における民間伝承の地方的領域—カルトグラフィによる二、三の試み—」pp.16-23
- ・「所感・交詢」pp.24-27
 - 山根俊久「地域常民の生活顕拓に」p.24
 - 森山繁樹「有利な環境の上に立って」p.24
 - 庄司久孝「人文地理学の立場から」p.25
 - 朝山皓「文献史学の立場から」pp.25-26
 - 倉橋清太郎「社会科への招待」pp.26-27
 - 中島正国「手近な言葉について」p.27
 - 桑原視草「くらしの中に究められるもの」p.27
- ・「資料報告」pp.28-33
 - ③(「石州の瓦つくり」)井之口章次「石州の瓦つくりたち」p.28
 - ③(「出雲のつけぎ製造」)岡義重「出雲のつけぎ製造一例」pp.28-29
 - ③(「葺おろし行事」)福島和夫「隠岐島の葺おろし行事」pp.29-30
 - ④(「隠岐島後大久の婚姻」)小脇清「隠岐島後大久部落の婚姻」pp.30-31
 - ④三原鹿市「出雲西浜村の若者宿と婚姻」p.30
 - 「櫻田勝徳氏より」p.31
 - ⑥(「出雲八束郡揖屋町の地区荒神」)島田成矩「出雲八束郡揖屋町の部落荒神」pp.32-33
 - 堀井度「民間医術補遺—ヤブとユター—」p.33
- ・「書誌紹介:日本民俗学会機関誌『日本民俗学』第3号、にひなめ研究会編『新嘗の研究』、堀一郎著『我が国民間信仰史の研究』、牧田茂著『生活の古典』、現代随想全集第一巻『柳田国男・笠信太郎集』、柳田先生稿『私の仕事』(『世界』2月号)、『短歌』創刊『釈超空追悼号』、雑誌『民間伝承』、『あしなか』37、『伯耆文化』28、『岡山民俗』9、『防長民俗』2、『近畿民俗』12、『加能民俗』2-7、『庄内民俗』3、小井川潤次郎著『いたこの伝承』、津軽民俗の会編『砂子瀬の話』」pp.34-35
- ・「会員名簿」p.36
- ・「山陰民俗学会々則」[頁表記なし]

2号(1954.5)

- ・⑫櫻田勝徳「隠岐、大久探訪旧記」pp.2-5
- ・⑧祝宮静「出雲隠岐地方の祭費慣行(承前)」pp.5-6
- ・⑧(「西出雲の頭屋」)岡義重「出雲の頭屋」pp.7-10
- ・連仏重寿「因伯のサイの神—特に部落との関連—」pp.10-11
- ・朝山皓「「つき物もち迷信の歴史的考察」を読む」pp.12-15
- ・大梁灰儿「千家尊統」「梅の民俗その他」p.16
- ・井上栄蔵「感ずることの二三」pp.16-17
- ・石田隆義「石東民俗の地域性」p.17
- ・③中島正国「美保神社の諸手船と諸手船神事」pp.18-22
- ・堀井度「中海の櫓舟—ソリコ・ヒラタ・サンマイゾコ・カンコー—」pp.23-26 [『出雲民俗』13所収論文の再掲載]
- ・③石塚尊俊「ソリコの技術伝承」pp.27-29
- ・③横山彌四郎「隠岐島前鱸戸船断片」pp.30-32

3号「諸国憑物特集」(1954.8)

- ・早川孝太郎「オトラ狐の後日譚について」pp.2-3
- ・小井川潤次郎「狐の憑いた話二三」pp.3-6
- ・直江広治「陸前十五浜のイジナ」p.6
- ・戸川安章「イタカゾンと狐憑き」pp.7-9
- ・「二つの地方学会—相模民俗と鹿児島民俗—」p.9
- ・岩崎敏夫「はやまののりわらの話」pp.10-11
- ・川端豊彦「両総地方の憑物」pp.12-13
- ・和田正洲「甲州北都留郡の狐憑」pp.13-16
- ・沢田四郎作「大和葛城地方の憑物」p.16
- ・千葉徳爾「赤石山系の山村における狐持について」pp.17-20 [表紙・目次に記載なし]
- ・三浦秀宥「美作地方に於ける憑物の概要」pp.21-27
- ・堀田吉雄「東海道西辺の狐憑二三」p.27
- ・石塚尊俊「出雲およびその周辺地方の狐持と狐神」pp.28-31

- ・船津重信「石見邑智地方の犬神思想」 pp.32-34
- ・松浦康麿「隠岐島前飯綱の記録」 pp.34-35
- ・桂井和雄「土佐の犬神統と蛇統」 pp.36-40
- ・井之口章次「肥前北松浦郡平戸周辺の憑物」 pp.40-42
- ・村田熙「隅薩のヤコツキについて」 pp.42-44

4号 (1954.11)

- ・土屋長一郎「稲米稱呼の推移」 pp.2-7
- ・④小森搖子「出産と夫」 pp.8-11
- ・⑥（「能義郡布部村西ノ谷の同族神」）井塚忠「同族と同族神一出雲能義郡布部村西ノ谷部落の場合一」 pp.12-13
- ・「小論・交詢」 pp.14-15
 - 藤原央子「民俗学と私」 p.14
 - ④馬庭克吉「親方と子方」 pp.14-15
- ・「資料報告」 pp.16-24
 - 佐々木嘉竹「隠岐大久の伝説」 pp.16-17
 - ⑥岡義重「八束郡諸方荒神聞書」 pp.17-21
 - ⑥山根雅郎「簸川、飯石地方荒神調書」 pp.22-24
- ・「書誌紹介：民俗学研究所編『民俗学手帖』、本田安次著『霜月神楽之研究』、本田安次・郡司正勝編『民俗芸能』、牧田茂著『海の民俗学』、機関誌『日本民俗学』2-2」 p.25

5号 (1955.2)

- ・蓮佛重寿「昔ばなし抄」 pp.2-4
- ・牧田茂「焼火信仰と船霊信仰」 pp.5-8
- ・⑥石塚尊俊「中山陰の屋敷神一特に祭祀団との関聯において一」 pp.9-15, 25
- ・「小論・交詢」 pp.14-17
 - 朝山皓「カイマンの話」 p.16
 - 石塚尊俊「門松の事」 pp.16-17, 19
- ・「資料報告」[目次にのみ表記あり] pp.18-25
 - 堀井度「大和吉野郡の炭焼き」 pp.18-19
 - 永海一正「隠岐島前採集備忘」 pp.20-22
 - ⑨横山彌四郎「隠岐島知夫村一宮社の皆一踊」 pp.22-23
 - 石田隆義「石見物部神社の祈雨祭」 pp.23-24
 - 堀井度「沖繩島尻郡久米島のユタ」 pp.24, 19
- ・「書誌紹介：柳田国男著『月曜通信』、渋澤敬三編『明治文化史(12)生活編』、柳田国男編『明治文化史(13)風俗編』、井之口章次著『佛教以前』、桂井和雄著『土佐の伝説 二』、日本民俗学協会編『日本社会民俗事典2（さーち）』、『日本民俗学』2-3、『岡山民俗』13、『加能民俗』2-13,14、『近畿民俗』15、『民間伝承』18-12」 pp.26-27

6号 (1955.5)

- ・②井之口章次「傳播の様相」 pp.2-7
- ・⑤岡義重「湯屋谷考」 pp.7-10
- ・石塚尊俊「七十五という数」 pp.10-12
- ・三浦秀宥「荒神神楽序説」 pp.12-13
- ・「小論・交詢」 pp.14-17
 - 木門実「千家尊統」[似た事・似た物] p.14
 - 蓮仏重寿「一つの疑問」 p.15
 - 朝山皓「憑いた話」 p.16
 - 堀井度「最近孤持になった話」 pp.16-17
 - 土屋長一郎「『隠岐島前採集備忘』に寄す」 p.17
- ・「資料報告」[目次にのみ表記あり] pp.18-23
 - ④田中新次郎「因幡・伯耆の産育習俗」 pp.18-21
 - 樋口益重「伯耆東伯郡上中山村のサイの神」 pp.21-22
 - 堀井度「吉野の親不幸鳥」 pp.22-23
- ・井上栄蔵「通信 民俗断片のはじめに」 p.23
- ・「書誌紹介：民俗学研究所編『日本民俗図録』、日本民俗学会機関誌『日本民俗学』2-4、千家尊宣氏編『神道学』5、遠藤二郎氏編『山陰研究』第一冊」 p.24

7号 (1955.8)

- ・石塚尊俊「山陰の両墓制」 pp.2-4
- ・郷田洋文「同族の祭と外竈一椀貸伝説の背景一」 pp.5-15, 24
- ・小島瓊礼「まん女系譜」 pp.15-17
- ・「小論・交詢」 pp.18-19
 - 山根俊久「石見のかっぱ」 pp.18-19
 - 馬庭克吉「胞の処置」 p.19
- ・「資料報告」[目次にのみ表記あり] pp.21-24
 - ④山根雅郎「出雲日御碕の二つの禁忌」 pp.20-22

- ④青山康次「出雲江角浦のコイについて」 pp.22-23
- ④横山弥四郎「隠岐島前浦郷の若者宿」 p.23
- 石塚尊俊「七十五補稿」 p.24

8号 (1955.11)

- ・山本宇迦夫「千家尊統」 「かまくら考」 pp.2-3
- ・朝山皓「荒神さんに就いて」 pp.3-7
- ・「小論・交詢」 pp.8-9
 - ③永海一正「一斗蒔其他」 p.8
 - 蓮仏重寿「台所という所」 pp.8-9
- ・「調査報告」 pp.10-23
 - ⑫桜田勝徳「大根島旧記」 pp.10-12
 - ④石塚尊俊「出雲佐香地方の村落結合」 pp.12-15
 - 岡義重「出雲斐川村黒目のトンドの頭屋」 pp.16-17
 - 永海一正「隠岐の神社概観」 pp.17-21, 15
 - 秋田三穂「芸備地方憑物二話」 pp.22-23
- ・「書誌紹介：和歌森太郎著『美保神社の研究』、堀井度著『民間芸術概論』、遠藤二郎編『山陰研究』第二冊、桂井和雄著『土佐山民俗誌』」 pp.23-24

9号 (1956.2)

- ・④丸山久子「産屋と女性」 pp.1-3, 5
- ・⑧桑原視草「出雲簸川郡西部の頭屋」 pp.4-5
- ・⑦（「出雲大原郡加茂地方の年中行事」）末次福三郎「出雲大原郡加茂地方の歳時」 pp.6-9
- ・⑫石塚尊俊「石見鹿足郡蔵木民俗誌」 pp.10-21
- ・「書誌紹介：盛永俊太郎編『稲の日本史』、柳田国男著『年中行事覚書』『新たなる太陽』、民俗学研究所編『総合日本民俗語彙』全5巻」 pp.22-23

10号 (1956.5)

- ・島田成矩「狐憑狐持研究史梗概」 pp.1-9
- ・草川隆「疱瘡神小考」 pp.9-12, 14
- ・馬庭克吉「モヤツケ語源考—出雲地方婚姻語解—」 pp.13-14
- ・宵魚「天つ罪国つ罪」 p.15
- ・坂本茂男「家筋と証人仲人」 p.15
- ・池田和生「千種たたら聞書」 pp.16-17
- ・⑩（「桧皮師の隠語語彙」）福島和夫「桧皮師の隠語—その語彙—」 pp.18-23
- ・⑩（「童言葉・言い草・諺—出雲簸川郡斐川村採集—」）岡義重「童言葉・言い草・諺（一）—簸川郡斐川村採集—」 pp.24,17
- ・「田植習俗の調査」 p.25
- ・「書誌紹介：橋浦泰雄著『民俗学問答』、今野円輔著『馬娘婚姻譚』」 p.26

11号 (1956.8)

- ・⑨依元昭「石見神楽舞の問題点」 pp.1-14
- ・「音信（桜田勝徳氏より）」 p.14
- ・⑨松浦康磨「隠岐島前の湯立について」 pp.15-17
- ・池田和生「播磨宍粟郡千種村西河内の産育習俗」 pp.18-19, 23
- ・⑩（「童言葉・言い草・諺—出雲簸川郡斐川村採集—」）岡義重「童言葉・言い草・諺（承前）—出雲簸川郡斐川村—」 pp.20-23
- ・「新刊案内：武田静澄『河童・天狗・妖怪』」 p.23
- ・「書誌紹介：『芸能復興』10、『近畿民俗』19、『上毛民俗』34、『民俗』19、『女性と経験』3、『兵庫民俗』2-2、『鹿児島民俗』3-1」 p.24

12号「岡義重氏還歴記念特集」(1956.12)

- ・編集部「岡義重氏稿 出雲簸川郡平坦地の民俗 発刊の辞」 p.1
 - 「目次」 p.2
 - 「略歴」 p.2
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」「民家と築地松」）「簸川平野の民家と築地松」 pp.3-5
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「民家の旧類型」 pp.6-7
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「井戸用水」 p.7
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「村の燈火」 pp.8-9
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「服飾の思い出」 「明治の頃—服飾の思い出—」 pp.10-11
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「ももひき」 p.11
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「食習歳時記」 pp.12-16
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「小作と出入者」 pp.16-17
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「村の休日」 p.17
 - ⑫（「出雲簸川郡平坦地の民俗」）「青年会以前」 pp.18-19

- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「青年の練成—タモギホリ・コメエナエコなど—」 pp.19-20
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「婚礼の話」 pp.20-21
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「ヒヤワセのことなど」 p.21
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「無常講」 pp.22-23, 31
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「年中行事覚書」 pp.24-26
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「岡惣荒神」 pp.26-27
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「富村の頭屋」 pp.28-31
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「富村の獅子舞」)「出雲富村の獅子舞」 pp.32-33
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「千度参り」 p.33
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「斐伊川下流の童謡」 pp.34-37
- ⑫ (「出雲簸川郡平坦地の民俗」)「児童の遊び」 p.37
- 「岡義重氏著作目録」 pp.38-39
- ・岡義重「お礼の言葉」 p.40

13号 (1957.3)

- ・郷田洋文「留守神信仰」 pp.1-15
- ・永海一正「地名「ヨコマクラ」の考—隠岐島に於ける条里制遺構の問題—」 pp.16-20
- ・編集部「解説の頁 民俗学への道—目的と方法—(石塚尊俊稿)」 pp.21-23
- ・⑫ (「早川孝太郎氏」「岡田秀勝氏」「朝山皓氏」)「訃報—早川孝太郎氏、吉岡福寿氏、岡田秀勝氏、朝山皓氏—」 [石塚尊俊] pp.24-25

14号 (1957.6)

- ・石塚尊俊「歳神の滞留とその祭場の問題」 pp.1-7
- ・蓮仏重寿「「市」のつく地名」 pp.8-9
- ・③横山彌四郎「隠岐島前の漁と船の習俗」 pp.10-13, 9
- ・馬庭克吉「八幡社の頭屋—出雲市下古志町上北組部落—」 pp.14-15, 13
- ・岡義重「童言葉・言い草・諺(承前)—出雲斐川村採集—」 pp.15-17, 19
- ・「中国四国歴史学協会第六回大会研究発表要旨(石田隆義「島根県の民家について」、牛尾三千夫「大元神楽に於ける託宣の方式」、松岡利夫「「通り合い」について」、田中新次郎「山陰の葬送」、石塚尊俊「いわゆる「お楽しみさん」の成立」)」 pp.18-19
- ・「雑誌メモ」 p.20

15号「隠岐民俗特集」(1957.11)

- ・桜田勝徳「離島民俗の研究」 pp.2-3
- ・⑫牛尾三千夫「島の伝承者と採集者」 pp.3-7
- ・田中新次郎「隠岐民俗走見記」 pp.8-9
- ・石塚尊俊「隠岐の民俗と本土の民俗」 pp.10-13
- ・③祝宮静「隠岐の「ともど」その他」 pp.14-16
- ・田中豊治「隠岐の牧畑—性格とその発生論的考察—」 pp.17-22
- ・④佐々木嘉竹「隠岐島の抜祝言」 pp.23-24
- ・⑨本田安次「隠岐国分寺の連華会祭」 pp.24-26
- ・⑨ (「隠岐の民俗芸能—神楽—」「隠岐の田楽と庭の舞」[部分]) 松浦康磨「隠岐の民俗芸能—神楽・田楽・庭の舞について—」 pp.26-32
- ・岡義重「隠岐民俗拾遺」 p.33
- ・⑫直江広治「五箇村久見の民俗」 pp.34-36
- ・⑥ (「五箇村苗代田採訪録—隠岐におけるイエの神とムラの神の一例—」) 永海一正「五箇村苗代田部落採訪録—隠岐に於ける屋敷神の一例—」 pp.36-41
- ・横山彌四郎「知夫村俚諺採集控」 pp.41-43
- ・⑦ (「隠岐島の年中行事」[部分]) 石塚尊俊「隠岐島民俗誌抄—村構成と歳時習俗—」 pp.43-50
- ・「隠岐民俗文献目録」 [石塚尊俊] pp.51-52

16号 (1958.2)

- ・石塚尊俊「日本における蠱術の道統」 pp.1-11
- ・足立東衛「西近江に於ける神サン苗の稲作遺習」 pp.11-12
- ・⑤石田隆義「葬礼覚書」 pp.13-14
- ・坂本茂男「縄手と横枕私考」 pp.14-15
- ・木村重延「出雲の日待」 pp.15-16
- ・井上栄蔵「マムシの民俗」 p.17
- ・岡義重「続隠岐民俗拾遺」 pp.18-19
- ・木村重延「鹿島名分の巨人伝説」 p.19

17号 (1958.5)

- ・④馬庭克吉「簸川地方の隠居分家」 pp.1-6
- ・⑦ (「石見東部地区の正月行事」) 石田隆義「石見のとんどについて」 pp.7-9
- ・岡義重「島根県方言研究小史」 pp.10-18

- ・井上栄蔵「柏餅のカヤマキの作り方」 p.19
- ・「書誌紹介：蓮仏重寿著『因伯道神志』、田中新次郎氏著『因幡の摩尼寺』」 p.20

18号 (1958.9)

- ・土屋長一郎「はんばの語源」 pp.1-13
- ・「石塚尊俊・岡義重・小汀松之進共編『出雲の民話』(日本の民話12)」[新刊紹介] p.13
- ・鶴山生「千家尊統」「田の神去来の道筋」 p.14
- ・井上栄蔵「持田のモシとサネモリさん」 pp.14-16
- ・岡義重「富村の昔の染色」 pp.16-17
- ・⑥(「隠岐島後の同族神」) 石塚尊俊「隠岐島の同族と同族神」 pp.17-19
- ・「書誌紹介：桜井徳太郎『日本民間信仰論』、平凡社編『日本民俗学大系』、落合高校歴史研究クラブ編『八塔寺周辺の民俗』」 p.20

19号 (1959.11)

- ・⑧宮地治邦「隠岐に於ける神社祭祀の一事例—長尾田の白山神社の場合—」 pp.1-4
- ・⑧石塚尊俊「島根半島における頭屋制序説」 pp.5-13
- ・③蓮仏重寿「木地屋メモ」 pp.14-16
- ・⑩(「桧皮師の隠語彙 補」) 福島和夫「檜皮師の隠語語彙」 pp.16-17
- ・木村重延「荒神についてのノート」 pp.18-19
- ・「島根県内発行民俗学関係出版物目録」 pp.20-21
- ・「新刊紹介：新藤久人著『芸北神楽と秋祭』、山岡栄市編『山陰農村の社会構造』、堀井度著『日本民間病名総覧』、読売新聞社編『わたくしたちの伝説』、『國學院大學日本文化研究所紀要』5、成城大学民俗学研究室『南島文献資料目録』 p.22

20号「特集 島根半島およびその周辺地区の正月行事」(1960.6)

- ・石塚尊俊「自序」「目次」[頁記載なし]
- ・石塚尊俊「島根半島およびその周辺地区の正月行事」 pp.1-26

21号「民俗芸能特集」(1961.10)

- ・⑨西角井正慶「山陰芸能管見」 pp.1-4
- ・⑨本田安次「出雲神楽の弘布—神楽の分類—」 pp.5-9
- ・⑨松浦康磨「隠岐島後の注連行事」 pp.9-15
- ・石塚尊俊「神能と王子立—中国地方諸神楽の成立に関する私案—」 pp.16-20
- ・田中新次郎「因幡伯耆の獅子舞」 pp.21-22
- ・宮原兎一「西石見の盆踊」 pp.23-24
- ・⑨岡義重「出雲国内の盆踊」 pp.25-27
- ・⑨横山直材「八雲琴私考」 pp.27-30
- ・牛尾三千夫「夜網を引く歌に就いて」 pp.31-33
- ・「旧法により選定されていた芸能」 p.33
- ・榎本由喜雄「文化財保護法の立場から見た地方の芸能」 pp.34-37
- ・祝宮静「民俗資料としての芸能」 pp.38-39
- ・「民俗芸能研究文献」 p.39
- ・編集部「山陰の民俗芸能 解説(文責、石塚尊俊)」 pp.40-53

22号(1962.10)

- ・⑫「柳田国男先生を悼む」[石塚尊俊] p.1
- ・⑧(「日御碕社神剣奉天神事考」) 吉田重成「神剣奉天神事考—日御碕社に詣でて—」 pp.2-16
- ・⑧石田隆義「山陰の民俗と修験道」 pp.17-21
- ・「民俗資料緊急基本調査—島根県文化財だより—」 p.21
- ・田中新次郎「鮎の今昔資料覚書」 pp.22-23
- ・③(「夜打畑・灘肥」) 岡義重「夜打畑・灘肥・茶碗継ぎ」 pp.24-25
- ・③石塚尊俊「麻の皮剥ぎ」 p.25
- ・「新刊紹介：蓮仏重寿編『柳田先生はがき栞』、井之口章次編『昭和三十五年民俗採訪』」 p.26

23号「大根島特集」(1963.10)

- ・「大根島特集」
- ⑫石塚尊俊「大根島梗概—付、大根島と人蔘—」 pp.1-6
- ⑫石田隆義「大根島の阿弥陀堂」 pp.7-8
- ⑫酒井董美「大根島波入の童戯」 p.8
- ⑫山根俊久・岡義重・森脇太一・石田隆義・永海一正・松浦康磨・酒井董美・石塚尊俊「大根島民俗誌(文責石塚尊俊)」 pp.9-21
- ③岡義重「鹿島町上講武の藤布」 pp.22-24
- ・奥原国雄「松江市大垣の影人形」 pp.25-28
- ・勝部正郊「隠岐島採訪記」 pp.29-30
- ・「『島根県下三十地区の民俗』、『昭和三十六年度民俗採訪』」[新刊紹介] p.30

24号 (1965.1)

- ・⑩酒井董美「唄問答」等の意義を考えるために」 pp.1-11
- ・⑧勝部正郊「頼原町由来八幡宮の当屋制と神事」 pp.12-17
- ・岡義重「霜月雑記 山陰路の四季—山陰文化シリーズ3—」 p.17
- ・松浦康麿「隠岐島後布施村の山神祭」 pp.18-23
- ・堀江要四郎談：石塚尊俊記「菅谷鑪村下聞書」 pp.24-33

25号 (1975.10)

- ・「巻頭言(石塚尊俊記)」 p.1
- ・「山陰民俗学会 会則」 p.2
- ・石塚尊俊「山陰における民俗研究の歴史と課題」 pp.3-21
- ・「書誌紹介：川上迪彦氏の『いろいろばた』、谷川健夫著『健康栄農』」 p.21
- ・⑥白石昭臣「石見における大元信仰」 pp.22-33
- ・⑤(「安来平野の両墓制—特に久白・出来須地区の場合—) 井塚忠「安来平野の両墓制—特に久白・出来須部落の場合—」 pp.34-41
- ・⑪(「出雲平野 明治の食生活」) 岡義重「(遺稿) 簸川平野の食習歳時記—明治時代の農事暦による—」 pp.42-47
- ・島田成矩「黒田芹採訪記」 pp.48-59
- ・勝部正郊「民具の収集について」 p.60
- ・⑫(「岡義重翁逝く」)「訃報 岡義重氏」 p.61
- ・「会員名簿」 pp.62-64
- ・「山陰民俗文献目録1(未定稿)」[石塚尊俊] pp.65-72

26号 (1976.4)

- ・石塚尊俊「白蓋考」 pp.1-8
- ・⑨渡辺友千代「石西地方の神楽について」 pp.9-14
- ・高橋重夫「石見山間部の大元神と大元神楽—邑智郡羽須美村阿須那地方の場合—」 pp.15-22
- ・「岡義重翁遺稿『斐川町物語(仮称)』」[遺稿集出版予告] p.22
- ・井塚忠「島根半島の両墓制」 pp.23-26
- ・⑧八幡静男「隠岐島後の「氏神さんのゴザイレ」について」 pp.27-29
- ・⑦川上迪彦「伯耆日野郡日南町神戸上の正月行事」 pp.30-32
- ・白石昭臣「山の神信仰に関する資料」 p.32
- ・⑫大庭良美「石見吉賀地方の民俗」 pp.33-51
- ・「会員名簿(前号掲載以後)」 p.51
- ・「山陰民俗文献目録2(未定稿)」[石塚尊俊] pp.52-60

27号 (1976.10)

- ・大庭良美「村の神々—石見日原における神社整備以前—」 pp.1-7
- ・「幻の書 水まさ雲 再刊なる」 p.7
- ・⑨石塚尊俊「山の神出現の神楽」 pp.8-13
- ・⑨渡辺友千代「抜月神楽の「山舞」について」 pp.14-17
- ・⑨勝部月子「石見益田糸操り人形」 pp.18-26
- ・「第二回大会研究発表要旨」 pp.27-45
 - ③(「伯耆日野郡の焼畑慣行」) 川上迪彦「伯耆日野郡の焼畑慣行について」 pp.27-33
 - ③浅沼博「雲南地方における鞍下牛の慣行について」 pp.34-36
 - ③(「石見山間部の紙漉き用具」) 隅田正三「石見山間部の紙漉き用具について」 pp.37-45
- ・⑦井塚忠「松江市朝酌の年中行事」 pp.46-49
- ・⑦石塚尊俊「ムコ神さんをたずねる」 pp.50-54
- ・「山陰民俗文献目録3(未定稿)」[石塚尊俊] pp.55-56

28号 (1977.4)

- ・⑧祝宮静「二つの「まつり」—幼き日の思い出—」 pp.1-3
- ・山田良夫[石塚尊俊]「生活の歴史—老人学級のために—」 pp.4-11
- ・⑩大庭良美「麦搗唄と田植唄」 pp.12-16
- ・野村正大「塩鯖」 pp.17-21 [29号p.23に訂正記事あり]
- ・④谷川健夫「ヒヨンジとハーデー—西伯郡中山町の慣行—」 pp.22-23
- ・白石昭臣「焼畑のむら—その信仰と祭祀構造—」 pp.24-31
- ・石塚尊俊「納戸神に始まって」 pp.32-52

29号 (1977.10)

- ・牛尾三千夫「草取唄」 pp.1-6
- ・①(「民俗学の新しい課題」) 宮田登「第三回大会講演 民俗研究の新しい課題」 pp.7-16
- ・「新刊紹介：山陰民俗学会編『ふるさと再見』、隠岐島前高校郷土部『隠岐島前の民話』」 p.16
- ・④(「邑智郡石見町における寝小屋の習俗」) 土井久夫「第三回大会研究発表要旨 石見町における寝小屋の習俗について」 pp.17-19

- ・渡辺友千代「第三回大会研究発表要旨 石見における団七踊りについて」 pp.19-23
- ・⑧（「隠岐島前の御座替・御座入神事」）松浦康磨「文献に見る隠岐島前の御座替・御座入神事」 pp.24-26
- ・⑧八幡静男「隠岐島後五箇村の客祭り」 pp.26-30
- ・石塚尊俊「出雲の客神と客神祭り」 pp.30-31
- ・⑧馬庭克吉「出雲市下古志町の八幡講」 pp.32-35
- ・青山富三「松江市多賀神社の鎮火祭など」 pp.35-36
- ・⑦浅沼博「大原郡のミコ神さん」 pp.36-37
- ・⑪（「横田奥大呂の今昔」）森山庫市「大呂民俗落穂籠」 pp.38-41
- ・⑨大庭良美「石見神楽雑記」 pp.42-51
- ・大庭良美「書評 牛尾三千夫著『美しい村』」 pp.52-53
- ・勝部正郊「学会紹介 中国四国地区の民具研究会」 p.53
- ・「第二十九回日本民俗学会年会」 p.53
- ・「会員名簿（前号掲載以後）」 p.54
- ・「故岡義重翁執筆目録」〔石塚尊俊・岡佳英〕 pp.55-62

30号（1978.4）

- ・勝部正郊「中国山地における雪すきについて」 pp.1-12
- ・石塚尊俊「島々の神楽と神楽師—壱岐・対馬・五島・平戸・隠岐—」 pp.13-36
- ・「共同課題 祭祀習俗調査概報」 pp.37-53
 - ⑧野村正雄「出雲朝山八幡宮の頭祭り」 pp.37-39
 - ⑧中江国憲「伯耆中山町岡の氏神祭り」 pp.39-40
 - ⑧岩田曆男「石見金城町上若生の名と祭り」 pp.40-42
 - ⑧高橋重夫「石見羽須美村賀茂神社の次ノ日祭り」 pp.43-44
 - ⑦三上正照「節分の豆煎り—邑智郡瑞穂町下亀谷—」 p.44
 - 山口寛「石見川本町田原の世はかり」 p.45
 - 石塚尊俊「出雲八雲村屋上寺の大餅さん」 pp.46-49
 - ⑦石倉諒一「出雲八雲村田村神社の大餅さん」 pp.49-50
 - ⑦青山富三「松江市西尾町天神神社のお祷さん」 pp.50-51
 - 山田良夫〔石塚尊俊〕「出雲鹿島町片句の頭開き」 pp.52-53
- ・「新刊紹介：『とんとん昔があっただけな』」 p.53
- ・「学会記事」「中国四国民具研究会案内」 p.54
- ・⑫（「森脇太一氏」「小汀松之進氏」）「会員訃報：森脇太一氏、小汀松之進氏」 p.54

31号（1978.10）

- ・岩田勝「死繁昌の杖—壬生井上家藏天正十六年荒平舞詞—」 pp.1-28
- ・野村正雄「第四回大会研究発表要旨 出雲平野における荒神と祭祀団」 pp.29-30
- ・白石昭臣「第四回大会研究発表要旨 両墓制の成立について—島根の事例から—」 pp.31-35
- ・「牛尾三千夫氏古稀祝賀会」 p.35
- ・⑨山口寛「第四回大会研究発表要旨 出雲・石見の祭り花について」 pp.36-44
- ・⑩川上勉彦「第四回大会研究発表要旨 俚謡“三匹の猿”を追って」 pp.45-53
- ・⑪（「石見国鹿足郡畑村 第一稿 村と家」）大庭良美「石見国鹿足郡畑村一村と家—」 pp.54-63
- ・「会員名簿（前号掲載以後）」 p.64

32号（1979.4）

- ・「巻頭言 自郷人の民俗誌」 p.1
- ・⑪（「人の一生—祖父友十とその子たち—」）大庭良美「石見国鹿足郡畑村一人の一生—」 pp.2-12
- ・⑪（「石見山村小作農の暮らし—那賀郡波佐菅廻舎小作の場合—」）上田房一「石見山村小作農の一年—那賀郡波佐菅廻舎小作の場合—」 pp.13-49
- ・「新刊紹介：宮家準編『大山石鎚と西国修験道』、田中卓著『古代天皇の秘密』」 pp.49
- ・森山庫市「続 大呂民俗落穂籠（遺稿）」 pp.50-54
- ・④馬庭克吉「ある民間療法の手控」 pp.55-56
- ・⑨川上登「山の神と荒平—仙山神楽の詞章—」 pp.57-58
- ・⑫（「祝宮静博士を悼む」「山根俊久宮司帰幽」）「二つの訃報—祝宮静博士と山根俊久宮司—」〔石塚尊俊〕 pp.59-60

33号「創立三十周年記念大会号」（1979.10）

- ・岩田勝「五竜王から五人の王子へ」 pp.1-23
- ・⑨小島清兵衛「獅子頭について」 pp.24-25
- ・⑧馬庭克吉「一畑灯籠と一畑講」 pp.26-32
- ・石橋義貴「部落祭祀〈歳神祭り〉その変容—平田市小伊津町の場合—」 pp.33-36
- ・⑤（「シンポジウム—葬制・墓制・祖霊信仰—」）「シンポジウム—葬制・墓制・祖霊信仰—」 pp.37-53
 - 土井卓治「1墓と葬法の問題点」 pp.38-43
 - 白石昭臣「2祖霊観について—山陰の事例から—」 pp.44-48
 - 喜多村正「3南西諸島における祖神化」 pp.49-53

34号 (1980.4)

- ・坂田友宏「モット講とミタママツリ一弓浜半島における地主神祭祀一」 pp.1-6
- ・岩田勝「五竜王から五人の王子へ (承前)」 pp.7-18
- ・⑩川上登「出雲神楽のほめ言葉」 pp.19-20
- ・山田良夫「石塚尊俊」 「出雲槻之屋神楽の「山神祭」の詞」 p.20
- ・石塚尊俊「サエノカミ信仰の成立 (旧稿) (昭和十五年一月)」 pp.21-39
- ・⑪(「石見国鹿足郡畑村 第二稿 百姓の暮らし」)大庭良美「むかしの百姓一石見国鹿足郡畑村 (三) 一」 pp.40-53

35号 (1980.10)

- ・岩田勝「神子と法者一近世前期における郷村祭祀の祭司層一」 pp.1-18
- ・⑥石倉諒一「第六回大会研究発表要旨 八雲村における荒神祭祀について」 pp.19-21
- ・市後崎長昭「第六回大会研究発表要旨 屋内に祀る田の神一山陰の納戸神と南九州の田の神一」 pp.22-23
- ・川上迪彦「第六回大会研究発表要旨 語られる頻度による昔話の伝承経路について」 pp.24-29
- ・⑥「シンボジウム一家の神と村の神一」 pp.30-61
 - 石塚尊俊「1神棚・屋敷神・産土神」 pp.31-37
 - 坂田友宏「2屋敷神研究の一視点一井戸神の問題一」 pp.38-43
 - 三浦秀有「3使者霊信仰の一面について」 pp.44-51
 - 日野西眞定「コメント(1)」 pp.51-55
 - 原宏「コメント(2)」 pp.56-61
- ・⑫(「畑伝之助氏」)「訃報：畑伝之助氏」 p.62

36号 (1981.4)

- ・③(「江川船と船乗りたち」) 山口覚「江川船と船乗りたちの習俗」 pp.1-20
- ・岩田勝「身ウリ能の形成と伝播」 pp.21-29
- ・⑨高橋重夫「大元神楽の「天蓋」と「御崎」について一宇都井神楽団に伝えられた一」 pp.30-34
- ・⑧原宏一「山陰の磨崖仏について」 pp.35-39
- ・馬庭克吉「龍と水と」 pp.40-43
- ・⑪(「石見国鹿足郡畑村 第三稿 畑作その他」)大庭良美「農林業一畑作その他一石見国鹿足郡畑村(四)」 pp.44-52
- ・⑫(「宮本常一氏」)「訃報：宮本常一氏」 p.52
- ・「〔余滴〕」 p.52

37号 (1981.10)

- ・「第7回大会研究発表要旨」 pp.1-35
 - ⑧伊藤彰「海藻の民俗」 pp.1-4
 - ⑤白石昭臣「年忌習俗の成立について一隠岐美田の事例から一」 pp.5-10
 - ⑤坂田友宏「日野川流域の両墓制」 pp.11-22
 - ⑧原宏一「山陰における石仏分布の地域的特色」 pp.23-24
 - ⑥勝部衛「玉湯町中大谷における民俗信仰」 pp.25-29
 - 中俣均「出雲地方における“小正月の訪問者”について」 pp.30-35
- ・[新刊紹介：井塚忠・伊藤彰等共著『中国の生業2 漁業・諸職』p.4、真下三郎著『広島県の神楽』p.10、『島根町誌資料編』p.22、『探訪神々のふるさと三出雲と瀬戸内の神々』p.24、池口漂舟・谷川健夫編『日本を変えた淀屋』p.49]
- ・⑨石塚尊俊「神楽について」 pp.36-38
- ・⑪(「石見国鹿足郡畑村 第四稿 仕事習い」) 大庭良美「仕事習い一石見国鹿足郡畑村 (五) 一」 pp.39-49

38号 (1982.4)

- ・岩田勝「盤古から父盤古大王へ」 pp.1-21
- ・⑤坂田友宏「西伯郡東部の両墓制」 pp.22-33
- ・⑪(「離島にいて思い起すふるさとの明治一郷里出雲の伊波野で育ったころ一」) 浅川タネ「ふるさとの明治一出雲国簸川郡伊波野村一」 pp.34-37
- ・⑦大庭良美「村の一年一石見国鹿足郡畑村 (六) 一」 pp.38-47
- ・⑫(「高崎正秀博士逝去」)「訃報 高崎正秀博士」 p.48

39号「第8回大会特集号」(1982.10)

- ・⑨守屋毅「〈講演〉日本の祭りと芸能の特色」 pp.1-10
- ・⑨岩田勝「〈大会発表要旨〉五行神楽の成立について」 pp.11-16
- ・三宅博士「〈大会発表要旨〉水のまつり一馬贄の系譜をめぐって一」 pp.16-23
- ・⑤坂田友宏「東伯耆の両墓制」 pp.24-37
- ・③勝部正郊「〈大会発表要旨〉中国山地の雪櫃について」 pp.38-43
- ・⑤(「霊なるもの一石見国日原一」) 大庭良美「霊なるもの一石見国鹿足郡日原の民俗一」 pp.44-50

40号 (1983.4)

- ・石塚尊俊「現代と民俗学」 pp.1-13
- ・川上迪彦「唐王御前信仰メモ」 pp.14-17
- ・⑦山口覚「九月盆について」 pp.18-23
- ・⑪(「離島にいて思い起すふるさとの明治一郷里出雲の伊波野で育ったころ一」) 浅川タネ「ふるさとの明治

- (2)一出雲国簸川郡伊波野村一」 pp.24-28
- ③ (「石見日原の農耕用具」) 大庭良美「石見日原の民俗資料—鍬と鎌 稲作とその用具 麦作とその用具 枡—」 pp.29-42
 - 「新刊紹介：牛尾三千夫著『続美しい村』」[石塚尊俊] p.42
 - ⑫山田良夫「石塚尊俊」[吉賀奥探訪記—石見鹿足郡蔵木村民俗誌(抄)—」[1948年] pp.43-51
 - ⑫ (「最上孝敬氏」「堀三千女史」「奥原國雄氏」)「訃報：最上孝敬氏、堀三千女史、奥原國雄氏」[石塚尊俊] p.52
- 41号「第9回大会特集号」(1983.10)
- ⑤ (「民俗研究の今までとこれから—葬制・墓制研究に寄せて—」)石塚尊俊「民俗研究の今までとこれから」pp.1-4
 - ⑤佐藤米司「〈講演〉葬制・墓制研究の問題点」 pp.5-12
 - 「山陰地方—葬制・墓制関係文献(編集部)」[石塚尊俊] p.12
 - ⑤勝部正郊「出雲平野の屋敷墓」 pp.13-15
 - ⑤馬庭克吉「同族体の展開と屋敷墓—出雲市内平垣地において—」 pp.16-24
 - ⑤坂田友宏「屋敷墓と両墓制」 pp.25-33
 - ⑤石塚尊俊・蒿原訓司・勝部正郊・近藤殷範・馬庭克吉・川上登・坂田友宏・錦織天秋「質疑応答」 pp.34-36
 - 大庭良美「石見日原の民俗資料—運搬用具・蕨粉ほり用具・紙すき用具・櫛もぎ用具・牛の用具・養蚕用具」 pp.37-50
 - 川上迪彦「唐王御前信仰メモ(二)補遺」 pp.50-51
- 42号(1984.4)
- 「三月節供の研究に寄せて(石塚尊俊)」 pp.1-6
 - ⑦坂田友宏「因幡の雛送りノート」 pp.7-14
 - ⑦白石昭臣「三月節供の山登り」 pp.15-17
 - ⑦ (「年中仕来り記録控—伯耆汗入郡所子村—」) 川上迪彦「年中仕来り記録控—伯耆所子村—」 pp.18-27
 - 石塚尊俊「年中例式録—出雲稗原村—」 pp.28-37
 - ⑫ (「瀬川清子女史」[部分])「訃報：竹矢鄰夫氏・瀬川清子女史・小笠原宣秀氏」[石塚尊俊]
 - ⑨谷本浩之「芸北神楽の特色と背景」 pp.38-41
 - 大庭良美「石見日原の民俗資料(三)—山道具・木挽道具・炭焼道具・漁撈用具・狩猟用具—」 pp.42-53
 - 「新刊紹介：岩田勝著『神楽源流考』」[石塚尊俊] p.54
- 43号「第10回大会特集号」(1984.10)
- ⑩馬庭克吉「カドナ祝いとカドナの命名と—出雲平野に見られる屋号の態様をめぐって—」 pp.1-9
 - 山藤忠「旭町の谷舞について」 pp.10-11
 - ②「シンボジウム 民俗の地域差」 pp.12-49
 - 〔司会者(石塚)による前置き〕 pp.12-14
 - 坂田友宏「1因伯における民俗の地域差」 pp.15-23
 - 白石昭臣「2雲石の農耕儀礼にみる地域差」 pp.23-29
 - 藤井昭「3芸備の地域差とその背景」 pp.30-36
 - 川上迪彦「コメント(1)」 p.37
 - 原宏「コメント(2)」 pp.38-39
 - 「回答」「質疑応答」 pp.39-49
- 44号(1985.4)
- ⑦川上迪彦「狐狩り考」 pp.1-9
 - 淵川訓子「尾道市吉和の寒施行」 pp.10-11
 - ⑥浅沼博「斐伊川流域の竜神」 pp.12-13
 - ⑧大梁灰儿「千家尊統」・朝山皓「神在祭・新嘗祭問状答」[1952-53] pp.14-19
 - ②谷本浩之「浄土真宗の浸透と家の神信仰の変容」 pp.20-28
 - 大庭良美「石見日原の民俗資料(四)—藁・機織り・鍛冶・桶・石臼・樋・筵機・箕・高瀬舟・筏—」 pp.29-42
- 45号「第11回大会特集号」(1985.10)
- ⑤鈴木岩弓「摩尼寺における死者供養の形態と構造—仏教民俗学的一考察—」 pp.1-12
 - ④馬庭克吉「屋号を通してみる出雲の垣内—出雲平野の周辺にみるカイト系屋号の整理—」 pp.13-24
 - ③宅野幸徳「江の川下流域の漁撈習俗」 pp.25-31
 - 酒井董美「昔話「ネズミ浄土」における隠岐タイプの話型について」 pp.32-41
 - 「新刊紹介：牛尾三千夫著『神楽と神がかり』、大庭良美著『家郷七十年—村の生活誌—』、大庭良美著『緋駒』」 [石塚尊俊] pp.42-44
- 46号(1986.4)
- 石塚尊俊「いわゆる神送り・神迎えの問題」 pp.1-21
 - ⑦ (「山陰の綱引き」) 坂田友宏「山陰の綱引きについて」 pp.22-34
 - ⑨谷本浩之「將軍という名の神楽考 序説」 pp.35-46
 - 岩田勝「〈研究ノート〉対馬の迎六道・送六道をめぐって」 pp.47-53
- 47号(1986.11)
- 石塚尊俊「女人司祭—トカラからはじめて—」 pp.1-15

- ・白石昭臣「田の神と家の神—稲作と畑作の相違から—」 pp.16-21
- ・⑤坂田友宏「島根半島大芦の両墓制」 pp.22-29
- ・⑦（「島根半島御津浦の歳神頭行事」）喜多村理子「島根半島御津浦の調査報告（一）—歳徳さん行事と本願の役割—」 pp.30-36
- ・「下野敏見『ヤマト文化と琉球文化』、井之口章次編『六十年民俗探訪』」[新刊紹介] p.36
- ・名子平充美「神社信仰の諸類型—八重垣神社の場合—」 pp.36-43
- ・「書誌紹介：大庭良美『日原の民俗資料』、吉野裕子『陰陽五行と童児祭祀』、飯島吉晴『竈神と廁神』、井之口章次『俗信60話』」[石塚尊俊] p.44
- ・⑫（「牛尾三千夫氏婦幽」）「訃報 牛尾三千夫氏」[石塚尊俊] p.45
- ・「会員名簿（昭和61.10.1現在）」 pp.48-52

48号「大山北麓民俗調査特集」（1987.4）

- ・⑥谷本浩之「伯耆中山町のイエとムラとカミ—高橋地区を例として—」 pp.1-4
- ・白石昭臣「稲と麦一年中行事の調査から—」 pp.5-8
- ・④（「伯耆中山町・赤碕町の婚姻」）松田精一郎「中山町・赤碕町の婚姻」 pp.9-13
- ・「中山民俗断片（一）～（三）」[石塚尊俊] pp.13, 19, 41
- ・④（「伯耆中山町の産育について」）河内理恵「中山町の産育について」 pp.14-16
- ・川上迪彦「船上山信仰」 pp.17-19
- ・⑥勝部正郊「竜宮祠と竜神祭」 pp.20-24
- ・酒井董美・川上迪彦「伯耆大山北麓 口承文芸概観」 pp.25-40
- ・「会員名簿」 p.42

49号（1987.10）

- ・福留範昭「韓国の家祭と祖先」 pp.1-9
- ・⑫（「小泉八雲と民俗学—来日後の著書の分析を中心として—」）小泉凡「ラフカディオ・ハーン 小泉八雲と民俗学—来日後の著書の分析を中心として—」 pp.10-28
- ・⑥（「東出雲町内馬地区の荒神信仰・地主信仰」）浅沼政誌「東出雲町内馬地区の荒神信仰・地主信仰—信仰の実態について—」 pp.28-30
- ・⑥宮崎力「長門三隅町の神信仰」 pp.30-31
- ・永場三郎：「記録」勝部正郊「亀嵩算盤作りの今昔」 pp.32-37
- ・⑦（「七月盆」）馬庭克吉「民俗連鎖」 pp.38-39
- ・「共同課題・原稿募集・荒神・地主神・地神等調査」 p.39
- ・①石塚尊俊「民俗研究の姿勢はどう変わったか」 pp.40-49

50号「荒神・地主神特集」（1988.4）

- ・⑤白石昭臣「荒神信仰と祖霊信仰」 pp.1-5
- ・岩田勝「備後北部の弓神楽による荒神祭り—庄原市川北町久井田—」 pp.6-14
- ・⑥西村正志「湖辺周落の荒神—因幡旧高草郡三津の聖空間と村落構造—」 pp.15-20
- ・⑥川上迪彦「米子市富益の荒神・屋敷神信仰」 pp.21-29
- ・⑥若林久「隠岐島後の地主・荒神—布施村飯美・五箇村苗代田探訪報告—」 pp.30-35
- ・⑥野村正雄「西出雲平野の荒神祭祀—出雲市高松地区—」 pp.36-40 [51号p.13に訂正記事あり]
- ・⑥川上登「多伎町久村の三宝大荒神」 pp.40-41
- ・⑥（「平田市北浜の荒神・地主神」）石塚尊俊「島根半島漁村の荒神・地主神—平田市北浜地区の場合—」 pp.42-43
- ・「書誌紹介：石倉諒一『岩坂の荒神さん』、嘉藤紀道「遥堪樽戸谷荒神の記」」[石塚尊俊] p.43
- ・③（「千代川流域の筏流し」）勝部正郊「談話会発表要旨 千代川流域の筏流しの技術伝承」 pp.44-48
- ・川上迪彦「談話会発表要旨 なぞの出土民具三角板を追って」 pp.48-49

51号「大会発表特集」（1988.10）

- ・⑧西村正志「御崎の海子—大社町日御碕の古層と荒神—」 pp.1-10
- ・若林一弘「ポッペレ伝説の出自と成長」 pp.11-16
- ・上神千波弥「社祠を中心とする社会結合—大崎下島沖友地区の場合—」 pp.17-22
- ・①浅沼博・高木敏郎・井塚忠「共同討議 社会科における民俗資料の活用」 pp.23-36
- ・石塚尊俊「皇居前祈念・記帳のこと」 pp.37-40
- ・⑫石塚尊俊「坪井洋文君を憶う」 pp.40-44
- ・「新刊紹介：吉田冥莫『ちずごおり、あいづむら 柚所、山村共同体の研究』、白石昭臣『畑作の民俗』、馬庭克吉『苗字と門名』」[石塚尊俊] pp.45-47

52号「大会発表特集」（1989.10）

- ・白石昭臣「講演 私の民俗学」 pp.1-6
- ・土井伸一「ワニを食べる文化」 pp.7-13
- ・熊田一康「妙見講集団の展開」 pp.14-19
- ・④馬庭克吉「家名と村構成（序説）—家名調査報告の一断面—」 pp.20-24
- ・勝部正郊「民具の展示について」 pp.25-28
- ・③山口覚「カギアズカリという言葉」 p.28
- ・⑦（「安来地方の亥の子」）井塚忠「亥の子さん二例—亥の子・田の神・歳神—」 pp.29-31

- ・大庭良美「神楽今昔」 pp.32-39
- ・①（「“常民”の変遷」）石塚尊俊「〈講義〉常民論」 pp.40-49

53号(1990.4)

- ・①牧田茂「ケガレとコモリ」 pp.1-9
- ・白石昭臣「稲の伝承」 pp.10-12
- ・⑩西村正志「潜水の方言（上）—海人（あま）文化の言語地理的再検討—」 pp.13-23
- ・「会員の著作1：岩田勝『中国地方神楽祭文集』、三浦秀有『荒神とみさき—岡山県の民間信仰—』[石塚尊俊] p.23
- ・大庭良美「民具の展示」に寄せて」 pp.24-26
- ・「会員の著作2：大庭良美『津和野の民俗資料』」[石塚尊俊] p.26
- ・石塚尊俊「解説—歳時習俗の消長—正月・節分・彼岸—」 pp.27-34
- ・⑪（「卒寿にして思う—飯石郡頓原町志津見に生きて—」）藤原良政「若き日の思い出 昔の暮し」 pp.35-38
- ・大庭良美「私の民俗学への道」 pp.39-48
- ・「会員の著作3：勝部正郊『山陰の民具』、白石昭臣『江の川流域の民俗と伝承』、酒井董美『蛇むこものがたり』、竹田旦『兄弟分の民俗』、吉野裕子『山の神—易・五行と日本の原始蛇信仰—』、橋本鉄男『輪ノ内の昔』上」[石塚尊俊] pp.48-50

54号（1990.10）

- ・②「シンポジウム—民俗の地域性—」
- 勝部正郊「アプローチ」 p.1
- 「交易と文化」
- 多田房明「鮮魚の行商と農漁村文化の交流」 pp.2-7
- 「討議（司会 鈴木岩弓）」 pp.8-11
- 「社会結合と祭祀」
- 藤井昭「「名」の結合と荒神祭り」 pp.12-17
- 「討議（司会 坂田友宏）」 pp.18-22
- 「民間信仰の地方差」
- 高島信平「サイノ神の機能と形態」 pp.23-27
- 「討議（司会 川上勉彦）」 pp.27-30
- 「歳時と信仰」
- 若林久「納戸の祭りと田の神の去来」 pp.31-36
- 「討議（司会 白石昭臣）」 pp.37-41
- 「総括（司会 石塚尊俊）」 pp.42-51
- ・⑩西村正志「潜水の方言（下）—海人文化の言語地理的再検討—」 pp.52-60
- ・「会員の著作：森納『塞神考—因伯のサイノカミと各地の道祖神—』、倉石忠彦『道祖神信仰論』、岩田勝編『神楽—歴史民俗学論集1—』、竹田旦『祖霊祭祀と死霊結婚』」[石塚尊俊] pp.61-63

55号（1991.4）

- ・⑩平賀英一郎 [若林一弘]「牛鬼考」 pp.1-14
- ・⑩大庭良美「日原地名考」 pp.15-23
- ・⑩（さざなみ [石塚尊俊]）「オシミのこと」 p.23
- ・⑥井塚忠「出雲伯太町赤屋のサエの神」 pp.24-28
- ・今村充夫「アエノコトと納戸」 pp.29-30
- ・③平賀英一郎 [若林一弘]「カギアズカリについて」 pp.31-32
- ・③（「瀬戸内平野の高畝栽培」）河内理恵「広島県の高畝栽培について—安芸郡海田町を例にして—」 pp.33-35
- ・⑫石塚尊俊「田麦掘り探訪記」 pp.36-40

56号「柳田国男先生三十年祭・大会特集」（1991.10）

- ・①（「三十年祭記念大会の記」）「巻頭言」 pp.1-2
- ・①鎌田久子「講演 柳田国男先生回想—貴にして野を思う—」 pp.3-10
- ・①川上勉彦「「遠野物語」にひかれて—一周圏論についての一つの考え—」 pp.11-17
- ・①鈴木岩弓「「家の永続」をめぐる」 pp.18-27
- ・①白石昭臣「「稲の産屋」考」 pp.28-34
- ・「柳田国男の心に迫る—語部・鎌田女史に聞く—」[鎌田久子の講演後の質疑応答] pp.35-42
- ・大庭良美「村の老人たち—日原村聞き書きノート—」 pp.43-59
- ・「新刊案内：勝部正郊『雪の民具』（石塚尊俊）」 p.59

57号（1992.4）

- ・⑩鈴木岩弓「神社縁起にみられる神仏出現譚—『雲陽誌』を手がかりに—」 pp.1-7
- ・⑤浅沼政誌「「吊り上げ」を行わない地域の霊魂観について—八束郡東出雲町A地区の場合—」 pp.8-14
- ・⑧川上勉彦「幕末の因伯を歩いた宗教者たち」 pp.15-26
- ・⑦平賀英一郎 [若林一弘]「ネエタラオコセ考」 pp.26-27
- ・④大庭良美「「家」というもの」 pp.28-36
- ・④（「家と村—出雲市大津地区の場合—」）石塚尊俊「家と村」 pp.37-48

58号 (1992.10)

- ・①柳田國夫「旧稿再掲 将来の農政」 pp.1-18
- ・森廣厚造「柳田国男の農政思想について」 pp.19-21
- ・「編集附記」[石塚尊俊] p.21
- ・「大会研究発表特集」 pp.22-43
 - 浅藤直幸「日本民俗学から見る社会科の構想」 pp.22-26
 - 勝部正効「民具の活用一特に小中学校における一」 pp.27-29
 - ⑩酒井董美「子どもの遊び今昔」 pp.30-36
 - ⑧（「船上さん信仰」）中村芳雄「船上山信仰」 pp.37-40
 - ⑧森納「廂の民俗一因幡・伯耆の実態調査を通して一」 pp.41-43
 - ⑧若林久「隠岐のせんちの神さん」 p.43
- ・大庭良美「村の老人たち一日原村聞書ノート」 pp.44-53
- ・「会員の著作：岩田勝『神楽新考』、新谷尚紀『日本人の葬儀』」[石塚尊俊] p.53

59号 (1993.4)

- ・①（「社会科と民俗学再考」）浅藤直幸「民俗学からみる社会科再考」 pp.1-20
- ・③石塚尊俊「出雲平野の農具と農法」 pp.21-35
- ・大庭良美「村の老人たち(3)一日原村聞書ノート」 pp.36-49

60号 (1993.10)

- ・③（「山小屋の生活」）勝部正効「〈大会発表要旨〉山小屋の生活習俗について」 pp.1-7
- ・「新刊紹介：森納『日本盲人史考』」[石塚尊俊] p.7
- ・川上迪彦「衰退した信仰の推定とその方法について一高麗山信仰を例として一」 pp.8-12
- ・⑤竹内正樹「出雲平野の屋敷墓にみる祖先祭祀の形態と構造一簸川郡斐川町中州を事例として一」 pp.13-17
- ・⑦（「温泉津町の年中行事」）多田房明「温泉津町の年中行事から一問題の所在と調査地域の概要一」 pp.18-23
- ・大庭良美「村の老人たち(4)一日原村聞書ノート」 pp.24-36
- ・石塚尊俊「民俗学会半世紀の回顧一島根民俗通信・出雲民俗・山陰民俗の総括一」 pp.37-65

2 『傳承』 1-16 (1959-1965)

創刊号 (1959.2)

- ・「巻頭言 この十年」 p.1
- ・「論説 民俗学を学ばねばならぬ人々」[石塚尊俊] pp.2-3
- ・池田昭「『教育実験記録』採集による社会科学学習一三・四年の学習一」 pp.4-13
- ・③石塚尊俊「山陰海岸の刳舟の分布と祖型」 pp.14-17
- ・田中新次郎「因幡と伯耆の亥の子の祭り」 pp.18-19
- ・⑨矢富熊一郎「石見盆踊と楽器」 pp.19-21
- ・蓮仏重寿「因伯道神志その後」 pp.22-23
- ・井上栄蔵「島根半島のサイノカミ」 pp.23-25
- ・「出雲市文化財通信」[石塚尊俊] p.25
- ・溝上泰子「嫁の座」 pp.26-27
- ・漢東種一郎「入れ歯誕生」 pp.28-29
- ・「イメージの破壊」[石塚尊俊] p.29
- ・土屋長一郎「方言の探求 “出雲の民話” から」 pp.30-34
- ・⑩清水兵三「松江地方の俚諺など」 pp.34-35
- ・⑩（「童言葉・言い草・諺一出雲簸川郡斐川村採集一」）岡義重「童言葉・言い草・諺(承前)一出雲簸川郡斐川村一」 p.36
- ・⑫牛尾三千夫「山陰紀行」 pp.37-45
- ・桑原視草「鎮西行」「三瓶行」[俳句十句] p.45
- ・「新刊紹介：柳田国男『炭焼日記』、『千家先生還暦記念神道論文集』、『昭和三十二年度民俗採訪』」 p.46

2号 (1959.5)

- ・「論説 新生活運動の基礎学」[石塚尊俊] p.1
- ・宮本常一「新生活運動と民俗学」 pp.2-8
- ・石塚尊俊「俗信の残留と地域性の問題一憑きもの筋の多寡と家結合の形態一」 pp.9-15
- ・⑩福島和夫「檜皮師の隠語について一点描的な考察一」 pp.16-18, 21
- ・土屋長一郎「続方言の探求 まくれる・だらじ・こく一出雲の民話から一」 pp.19-21
- ・⑪（「祭の夜の神楽の記憶」）井原青々園「出雲神楽の思い出（遺稿）」 pp.22-23
- ・「『伝承』という言葉（桜田勝徳）」 p.23
- ・⑪（氷山「あこのころの物売り・大道芸など」）清水兵三「物売り・大道芸・見せ物など」 pp.24-27
- ・桑原視草「神門水海畔抄」[俳句十句] p.27
- ・木村重延「宍道の猪石」 pp.28-29
- ・⑩（「童言葉・言い草・諺一出雲簸川郡斐川村採集一」）岡義重「童言葉・言い草・諺（承前）一出雲簸川郡斐川村一」 pp.28-31
- ・石塚尊俊「隠岐島の俗信」 pp.30-31
- ・⑫牛尾三千夫「隠岐紀行」 pp.32-39
- ・「新刊紹介：宮本常一著『中国風土記』」 p.40

3号 (1959.8)

- ・「論説 本当の神道を識る学問」[石塚尊俊] p.1
- ・⑦高崎正秀「七夕の話」 pp.2-5
- ・山田野太郎「千家尊統」[殯宮、御旅所、神や魂を迎へる習俗] pp.6-8
- ・石田隆義「石東地方の民間信仰」 pp.8-9
- ・松崎清「言葉の二、三」 p.9
- ・⑦木村重延「講武地方の歳棚など」 pp.10-12
- ・小滝空明「小滝遥」[土に憑かれて [短歌五首] p.11
- ・土屋長一郎「一コンニコン」 p.13
- ・松下圭道「言い草」 p.13
- ・山根俊久「社頭随感 心に浮かぶままに」 pp.14-15
- ・花田定徳「刈山」 p.15
- ・⑨祝宮静「笛と太鼓一美保神社奉納楽器調査メモ」 pp.16-19
- ・木村重延「馬橋長者の話」 p.20
- ・坂本茂男「とうぼうさくの話」 pp.21-22
- ・堀井度「粟島(弓浜)の八百ベクサン」 pp.22
- ・「富田清知氏」[訃報] p.22
- ・⑩(「童言葉・言い草・諺一出雲簸川郡斐川村採集一」)岡義重「童言葉・言い草・諺(承前)一出雲簸川郡斐川村一」p.23
- ・⑪(「松江城下の商家の一年」)清水兵三「思い起こすままに」 pp.24-31
- ・⑫牛尾三千夫「隠岐紀行」 pp.32-40

4号 (1960.3)

- ・⑦(「トシトコ棚の恒久化」「ミコガミさま追記」[部分])石塚尊俊「若干の家の神とその信仰圏」 pp.1-6
- ・⑦木村重延「仏式の御頭・神式の御頭」 pp.7-10
- ・⑩(「『しらきてんじょ』のこと」)松下圭道「『しらきてんじょ』のこと」 p.10
- ・⑦井上栄蔵「年神さんと田の神さん」 pp.11-15
- ・原節子「いい伝え二、三—安来市大塚一」 p.16
- ・島田成矩「狐の史料一、二」 pp.16-17
- ・桑原視草「去年今年」[俳句八句] p.17
- ・⑩(「童言葉・言い草・諺一出雲簸川郡斐川村採集一」)岡義重「童言葉・言い草・諺(承前)一出雲簸川郡斐川村一」 pp.18-19
- ・小滝空明「小滝遥」[山の正月に想ふ] [短歌十二首] p.19
- ・漢東種一郎「随想 「出雲の方言」の駄弁」 pp.20-21
- ・⑪(「松江城下の商家の一年」)清水兵三「暮から正月まで—思い起こすままに(承前)一」 pp.22-30

5号 (1960.9)

- ・「論説 学問と世間風」[石塚尊俊] p.1
- ・木村重延「歳神の祭り様」 pp.2-5
- ・桑原視草「神門水海畔」[俳句十句] p.5
- ・④(「出雲佐香地方の村落結合」)石塚尊俊「海村の村連合一平田市佐香地区の場合一」 pp.6-11
- ・藤村則善「奥州気仙沼伊豆那見聞録」 pp.12-15
- ・横知文一「石塚尊俊」[隠岐島前憑物騒動覚] pp.16-17
- ・村田正夫「体験記録 私は鼠におされている」 pp.18-19
- ・岡義重「きのまた考」 p.20
- ・土屋長一郎「十二クダケ」 pp.20-21
- ・森脇太一「都野津の塩辛」 p.21
- ・「ブックガイド：落合高校編『二川の民俗』、蓮仏重寿著『天皇伝説』、毎日新聞社編『山陰路』、川端豊彦訳『民俗学入門』、斉藤槻堂編『若越民俗語彙』、戸川安章著『羽黒山二百話』」 pp.22-23
- ・⑪(「出雲と朝鮮と—思い起こすままに—」)清水兵三「出雲と朝鮮—思い起こすままに—」 pp.24-32
- ・小滝空明「小滝遥」[秋冬抄] [短歌十首] p.31
- ・「山陰往来」 p.32

6号 (1961.1)

- ・「論説 “民俗ブーム”の内容」[石塚尊俊] p.1
- ・⑩牛尾三千夫「麦搗唄」 pp.2-7
- ・⑨倉林正次「出雲神楽の周辺一曲目構成を中心として」 pp.8-15
- ・②郷田洋文「習俗の変化と観察の限界」 pp.16-19
- ・石塚尊俊「お歳暮のはなし」 pp.20-21
- ・土屋長一郎「リイクンサンその他」 p.21
- ・岡義重「鳥取民俗管見」 pp.22-23
- ・清水兵三「松江の言い草 きんといえども使われず」 pp.22-23
- ・森脇太一「都野津の俚諺—市のよいのは牛市田町一」 p.23
- ・太田直行「案外陥り易い穴」 pp.24-25
- ・④木村重延「生理日の旧習」 pp.25-27

- ・桑原視草〔俳句十句〕 p.27
- ・⑥石塚尊俊「探訪メモ 因伯の村の神と家の神」 pp.28-39
- ・小滝空明〔小滝遥〕「登呂遺跡その他」〔短歌十首〕 p.39
- ・「宮本常一著『日本の離島』」〔新刊紹介〕 p.40

7号 (1961.4)

- ・太田直行「民俗の真義を尋ねて」 pp.1-6
- ・桑原視草「神門水海畔抄」〔俳句十句〕 p.5
- ・千葉徳爾「狩の伝承について」 pp.7-12
- ・堀井度「疾病と治療の伝承」 pp.12-17
- ・池田昭「はるかなる国より来たり給う神々」 pp.18-23
- ・蓮仏重寿「清水という地名」 pp.24-25
- ・岡義重「『伝承』を読んで」 p.25
- ・③今岡美友「辛灰の話」 pp.26-27
- ・山本忠一〔石塚尊俊〕「カンザキミサキ」 p.27
- ・野坂ふさ〔石塚尊俊〕「まじないの覚え」 p.27
- ・⑩牛尾三千夫「民謡に於ける一筋のながれ」 pp.28-30
- ・井上栄蔵「松江市持田の字名」 p.31
- ・「書誌紹介：『法学雑誌』6、『岡山民俗』特集号、『鹿児島民俗』5-3・4、『土佐民俗』会報1、『日本民俗学会報』16」 p.32
- ・「島根県文化財だより」 p.32

8号 (1962.1)

- ・桑原視草「歳晚歳旦」 p.1
- ・⑩宮尾しげを「石見の田植囃子から」 pp.2-4
- ・興茂利「奄美大島の“性わる”」 p.4
- ・石塚尊俊「門櫛と御幣餅」 p.4
- ・⑨石塚尊俊「八岐の大蛇の譚と芸能と」 pp.5-11
- ・岡義重「ことばの旅から一島根県下方言調査こぼれ話一」 pp.12-13
- ・勝部正郊「奥飯石の霜月祭一姫の館（ひめのえ）神事について一」 pp.14-16
- ・⑧（「出雲大社の古伝新嘗祭」）山根雅郎「出雲大社の霜月祭一いわゆる古伝新嘗祭一」 pp.16-17
- ・石田春昭「[かい摺み]から」 p.18
- ・さざなみ〔石塚尊俊〕「年賀状」 pp.18-19
- ・蓮仏重寿「俗」 p.19
- ・三浦秀宥「ツボネの語」 p.19
- ・④（「若者宿と娘宿一八束郡島根村野波地区一」）酒井董美「八束郡島根村野波部落の若者宿と娘宿」 pp.20-22
- ・井上栄蔵「八十八才の伯母に聞いたももひきの話」 pp.23-24
- ・岡田千代子「土族の年中行事」 pp.25-31
- ・小滝空明〔小滝遥〕「小川芋銭画伯の絵を前に」〔短歌十首〕 p.31
- ・藤脇久稔「祭りの本来性」 pp.32-35

9号 (1962.4)

- ・⑧和歌森太郎「宮座と家族関係」 pp.1-4
- ・「東南アジアの“国学”」 pp.4-5
- ・「島根県文化財通信」 p.5
- ・芳賀日出男「山王寺神楽と出雲大社教」 pp.6-10
- ・渡部一雄「嫁入・婿入に位牌を持って行くこと」 pp.10, 17
- ・加藤義成「神名樋山の民俗信仰」 pp.11-15
- ・小滝空明〔小滝遥〕「立春前後」〔短歌十首〕 p.15
- ・奥原国雄「知井宮の人形」 pp.16-17
- ・⑪（「土族の家の年中行事一父は武家の後嗣、母は社家の出の下で育った娘のころの思出一」）岡田千代子「武家の父と社家出の母との間に育った娘の頃の話」 pp.18-19
- ・「『定本柳田国男集』9」〔新刊紹介〕 p.19
- ・岡義重「須佐朝原聞書」 p.20
- ・桑原視草「春風好日」 p.21
- ・⑩牛尾三千夫「臼挽唄そのほか一嫁と姑と小姑との問題一」 pp.22-29
- ・⑩岡霜月「民謡よせ書」 pp.30-31
- ・⑩（「わらべ歌は生きている」）酒井薫美「わらべうたは生きている一他の民謡との違い一」 pp.32-34

10号 (1963.1)

- ・桑原視草「初詣」 p.1
- ・④竹田旦「友人協同体の民俗」 pp.2-6
- ・③（「藤もじりのこと」）桜田勝徳「藤もぢりのこと」 pp.6-7
- ・小滝空明〔小滝遥〕「高冷地の春」〔短歌十首〕 p.7
- ・坪井洋文「備中吉川八幡の当番祭資料」 pp.8-13
- ・井上栄蔵「猫の絵奉納」 p.13

- ・石塚尊俊「美保関町雲津の頭屋行事」 pp.14-20
- ・「井之口章次編『筑波山麓の村』[新刊紹介] p.20
- ・原節子「能義の手まり歌」 p.21
- ・「山陰民俗22号正誤表」 p.21
- ・⑦（「出雲大原郡加茂地方の年中行事 追記南加茂の餅搗き」）末次福三郎「南加茂の餅搗き」 p.22
- ・千原秀「七十嬪物語」 p.23
- ・「島根県文化財専門委員の顔ぶれ」 p.23
- ・⑦奥原国雄「出雲の泥天神」 pp.24-34
- ・「おもしろく読めて教えられるところの少なからぬ本 芳賀日出男著『そこに何かがある 秘境旅行』」 pp.34-35

11号 (1963.4)

- ・桑原視草「葦焼く」 p.1
- ・③最上孝敬「高津川の鶴飼」 pp.2-6
- ・⑤（「葬礼覚書」）石田隆義「鉢巻のことなど」 p.7
- ・⑦倉石忠彦「半夏生のこと」 pp.8-13
- ・「重要民俗資料になった美保神社のソリコ」 p.13
- ・⑧（「頭屋祭の予祝演技—はんばかべりと嫁の飯まつり—」）藤脇久稔「芸能以前—はんばかべりと嫁の飯まつり—」 pp.14-20
- ・田中新次郎「藤の伝承」 pp.20-21
- ・小滝空明「小滝遥」[雪におびえて山人のうたへる] [短歌十首] p.21
- ・勝部正郊「座談記録 大黒巡遊」 pp.22-23
- ・⑩牛尾三千夫「麦搗唄其後」 pp.24-31
- ・「ソリコ・トモド資料（横山直材）」 p.31
- ・③石塚尊俊「農村労働の今昔—八束郡八雲村での話—」 pp.32-33
- ・「国・県指定を見た東比田の生産用具」 p.34

12号 (1964.1)

- ・桑原視草「寒鮒」 p.1
- ・⑩金関丈夫「箸・櫛・つるぎ」 pp.2-8
- ・②坪井洋文「日本社会における民俗文化の地域性」 pp.9-14
- ・牛尾三千夫「走鳥のえびより唄に就いて」 pp.15-18
- ・⑨石塚尊俊「因伯の神楽「七座」について」 pp.18-23
- ・「牛尾三千夫氏に中国文化賞」 p.23
- ・③竹崎嘉徳「藤布のことから」 pp.24-26
- ・新田瑠璃子「藤布を尋ねて」 pp.26-28
- ・佐々山義雄「那賀郡安城の民俗」 pp.29-31
- ・小滝空明「小滝遥」[山茶花] [短歌十首] p.31
- ・酒井董美「鹿足郡柿木村の地神申し」 pp.32-35
- ・「山陰最初の民俗資料収蔵庫」[月山城趾] p.35
- ・大庭良美「鹿足郡日原町畑の地神申し」 p.36
- ・清水兵三「朝鮮で古墳を掘った話」 pp.37-41
- ・「『岡山民俗』美作民俗特集号」[新刊紹介] p.41

13号 (1964.4)

- ・倉石忠彦「麦の年中行事」 pp.1-7
- ・⑫（「中島正国氏」）「訃報 中島正国大人」 p.7
- ・⑧（「島根県下御田植神事資料」）山路興造「島根県下御田植祭資料」 pp.8-12
- ・漢東種一郎「ある建白書」 pp.13-15
- ・小滝空明「小滝遥」[風樹] [短歌十首] p.15
- ・藤脇久稔「シンキト」 pp.16-19
- ・清水兵三「出雲風土記と雪」 pp.20-23
- ・「訃報 長瀬定市翁」 p.23
- ・石村春莊「いろはがるた」 pp.24-26
- ・岡義重「辰と巳と」 p.27
- ・石塚尊俊「里神楽の成立—中国地方の六つの神楽についての管見—」 pp.28-33
- ・「大社町で御師関係資料の蒐集に着手」 p.33
- ・「新刊紹介：竹田旦著『民俗慣行としての隠居の研究』、内藤喬遺著『鹿児島民俗植物記』」 p.34

14号 (1964.8)

- ・桑原視草「心太」 p.1
- ・③牛尾三千夫「田の草取り」 p.2-10
- ・石塚尊俊「調査日誌」 p.11
- ・岡義重「霜月雑記—よばり神さん—」 p.11
- ・⑩金関丈夫「シンデレラの靴」 pp.12-15
- ・白石昭臣「地名の二三」 pp.16-17, 21

- ・④勝部正郊「嫁ごさんみー出雲奥飯石地方」 pp.18-21
- ・藤原巳代子「出雲路」 pp.22-23
- ・清水兵三「松江地方に行なわれた外来語」 pp.24-32

15号 (1965.1)

- ・桑原視草「ちまき」 p.1
- ・後藤捷一「藍とその染色に就いて 其一」 pp.2-10
- ・③長田染水「藍の買いつけ」 p.11
- ・③小森清「松江市とその近郊の紺屋」 pp.12-13
- ・③岡義重「(霜月雑記) 紺屋のことども」 pp.14-15
- ・奥原国雄「松江の姉様と作者」 pp.16-19
- ・「新指定の民俗資料と無形文化財」 p.19
- ・白石昭臣「地名の二三 (承前)」 pp.20-21
- ・酒井董美「下木部の地主様」 pp.21-22
- ・蓮仏重寿「田中新次郎さんのこと」 pp.23-24
- ・⑫(「清水兵三氏」[部分]) 石村春荘「清水兵三氏と江指盛一氏」 pp.25-26
- ・「訃報 田中新次郎氏、清水兵三氏、江指盛一氏」 p.26
- ・石塚尊俊「〈問題解説〉葬式」 pp.27-34
- ・「新刊紹介：石田隆義著『山陰の民俗と原始信仰』、清水兵三氏著『出雲の民話民謡集』」 p.34

16号 (1965.11)

- ・桑原視草「柿一つ」 p.1
- ・石村春荘「松江の武者風」 pp.2-7
- ・⑦(「石見東部地区の正月行事」) 石田隆義「石見東部の正月行事」 pp.8-11
- ・③小森清「松江市とその近郊の紺屋 (承前)」 pp.12-13
- ・「新刊紹介：萩原龍夫著『祭り風土記(上)』、今野円輔著『日本迷信集』」 pp.12-13
- ・⑫(「田中新次郎さんとの四日間一採訪日録から」) 井之口章次「採訪日録一田中新次郎さんとの四日間一」 pp.14-20
- ・③(「柿木村の鶉飼」) 酒井董美「柿木の鶉飼」 pp.20-21
- ・勝部正郊「テープコーダーをひっさげて 民俗芸能収録事業参加の記」 pp.22-26
- ・岡義重「〈霜月雑記〉労働」 pp.26-27
- ・小滝空明「小滝遥」「三刀屋町峯寺吟行抄」[短歌七首] p.27
- ・⑫(「沼になる集落一備後高野山採訪日録一」) 石塚尊俊「沼になる部落一備後高野山採訪日録一」 pp.28-36

3 『山陰民俗研究』 1 - 15+ (1995-2010+)

1号 (1995.3)

- ・「巻頭言」 p.1
- ・②石塚尊俊「在来信仰の消長一中国地方における在来信仰と地域の宗旨および社会構造の関係一」 pp.3-38
- ・中上明「石見地方神楽舞の芸能分類に関する調査報告及び考察」 pp.39-53
- ・鈴木文子「韓国における出産の不浄観に関する予備的一考察」 pp.55-73
- ・門脇尚子「衣食の変遷と主婦の才覚一奥出雲民俗調査より一」 pp.75-97
- ・大庭良美「村の老人たち一幕末生れの老人の生活体験一」 pp.99-138

2号 (1996.3)

- ・坂田友宏「地主と荒神一山陰の事例を中心に一」 pp.1-18
- ・④(「ムラ生活の諸相一伯耆東伯郡赤碓町大字八幡向原地区下市地区民俗調査の一端一」[部分]) 喜多村理子「神社合祀とムラ社会一大正五年鳥取県東伯郡安田村大字八幡における宮騒動一」 pp.19-111
- ・西村正志「潜水方言考一山陰・山陽の潜水方言の比較一」 pp.113-157
- ・門脇尚子「鋳物師と地域社会一倉吉鋳物師の例一」 pp.159-174
- ・平賀英一郎「若林一弘」[掛合町の「絵取り」] pp.175-178
- ・大庭良美「日原農村語彙」 pp.179-218

3号 (1997.3)

- ・石塚尊俊「〈第四十八回日本民俗学会講演〉地方にいて思う民俗学の過去将来」 pp.1-32
- ・多田房明「石見東部地域における海・山の交流一行商活動の展開とその影響一」 pp.33-47
- ・岡佳英「千歯 (千把・後家倒し) について」 pp.49-53
- ・浅沼政誌「韓国のテブと家族一宅号の再検討一」 pp.55-65
- ・川上迪彦「将棋墓考一中・西伯菅における墓碑の最初と板碑の形式の変遷について一」 pp.67-81
- ・石塚尊俊「石見柿木村下須の萬歳楽」 pp.83-91
- ・小松善則・小林龍雄・山本茂信・吉田政博「但馬浜坂町川下祭りについて」 pp.93-102
- ・永井猛「鳥取県西部の盆踊り」 pp.103-122
- ・酒井董美「山陰の妖怪伝説「七尋女房」の正体」 pp.123-142
- ・酒井董美「〈山陰民俗学会平成八年度大会講演要旨〉仁多郡の昔話「金の犬こ」に見る伝承要素」 pp.143-152

4号 (1998.3)

- ・西村正志「山陰の追込漁の系譜」 pp.1-18
- ・勝部正郊「カンジキの地域差」 pp.19-32
- ・勝部正郊「民俗資料から見る韓国・山陰一ワラ工品とスキ・機具を通して」 pp.33-40
- ・品川知彦「出雲への神参集伝承の再検討に向けて」 pp.41-64
- ・白石昭臣「稲初から米・餅へ—稲魂信仰の系譜—」 pp.65-77
- ・平賀英一郎「若林一弘」 「東欧から柳田国男を見る」 pp.79-84
- ・石塚尊俊「柳田国男翁の書翰」 pp.85-108
- ・「〈予告〉 山陰民俗学会結成五十周年記念 民俗学の地域差とその基盤を考えるセミナー」 pp.109-111

5号 (2000.3)

- ・田中宣一「講演 伝承の力—これからの民俗学について考える—」 pp.1-22
- ・多田房明「海産物行商活動と農漁村文化の交流—石東海岸地域の事例を中心に—」 pp.23-42
- ・和多須三男「毒流し漁法の民俗的根源《緊急報告》—神楽発生論の確立に向けて—」 pp.43-94
- ・伊藤芳枝「盲僧と民間信仰」 pp.95-104
- ・藤脇久稔「四段吹き」 pp.105-107
- ・石塚尊俊「切目の神楽考」 pp.109-154

6号 (2001.3)

- ・石塚尊俊「民俗研究の反省と願望」 pp.1-20
- ・片山寛志「大原神職神楽の背景と譜本に関する一考察」 pp.21-25
- ・山崎亮「隠岐島前の墓上施設—「スヤ」の現象学に向けて—」 pp.26-38
- ・山下裕作「中国中山間地域農村における伝統的社會集団と地域営農・生活組織」 pp.39-44
- ・浅沼政誌「韓国の祭祀習俗—洞祭を中心に—」 pp.45-55
- ・降井直人「現代人と世間話—トイレの怪談を中心に—」 pp.56-81
- ・近藤直也「島根県下に於ける初誕生儀礼」 pp.82-96
- ・坂田友宏「風鎮めと火伏せの祭り—出雲大社・諏訪大社・智頭諏訪神社の事例から—」 pp.97-104
- ・エリツア・マリノヴァ「日本の風俗における水世界の階層構成と空間的な特性」 pp.105-115
- ・石田武久・山本質素・白石昭臣「第48回日本民俗学会年会シンポジウム 地域社會の形成と民俗」 pp.116-144
- ・「石塚先生によせて」 pp.145-149
 - 下野敏見「南九州から見る石塚尊俊先生」 pp.145-146
 - 野本寛一「金輪柱なす学を仰ぐ—石塚先生の傘壽に寄せて—」 pp.146-147
 - 勝部正郊「石塚先生の思い出」 pp.147-149
- ・酒井董美「書評：石塚尊俊著『山陰民俗一口事典』」 p.150
- ・「新刊紹介：白石昭臣・酒井董美共著『島根の冠婚葬祭』、酒井董美『島根 隠岐の民話』、酒井董美『鳥取ふるさとの民話』、小泉時・小泉凡共編『文学アルバム小泉八雲』、平川祐弘編『小泉八雲事典』、米子市史編さん協議会編『新修米子市史』第5巻民俗編」 pp.150-151

7号 (2002.2)

- ・近藤直也「鬼子の文化史 (前)」 pp.1-51
- ・板垣貴志「鞍下牛慣行と博労に関する一考察—鞍下牛貸出経営農家の史料紹介—」 pp.52-58
- ・和多須三男「西日本潜水方言考—ツブリ系潜水語とスムの成立—」 pp.59-94
- ・「会員新刊の紹介：石塚尊俊著『出雲国神社史の研究』、森納著『鳥取県の疾病史覚書—明治・大正時代—』、石塚尊俊著『出雲神楽』、石塚尊俊著『神話と祭りと芸能の山陰路』」 p.95

8号 (2003.2)

- ・室山敏昭「アヌノカゼの文化誌—漁民の風に対する世界観—」 pp.1-22
- ・中田眞治「「御碕さんの祭り」とその背景」 pp.23-39
- ・和多須三男「蜂狩り民俗の本質—クロスズメバチの方言とコキ祝いの蜂の子飯—」 pp.40-54
- ・白石昭臣「生業から見る出雲の世界」 pp.55-63
- ・坂田友宏「地名と神社にみる南九州海人族の足跡—アタ・クマ・カシをキーワードに—」 pp.64-77
- ・片山寛志「「真砂」の田植え囃子」 pp.78-80
- ・近藤直也「「鬼子」の文化史 (後)」 pp.81-109
- ・「会員新刊の紹介：室山敏昭著『「ヨコ」社會の構造と意味—方言性向語彙に見る—』、近藤直也著『「鬼」論序説—その民俗的考察—』、近藤直也著『「鬼子」と誕生餅—初誕生儀礼の基礎的研究 九州沖繩編—』、石塚尊俊著『民俗の地域差に関する研究』、勝部正郊著『神の国の祭り暦』」 p.110

9号 (2004.3)

- ・勝部正郊「講演 民具探訪をふりかえり」 pp.1-8
- ・石橋圭子「出雲・伯耆地方の龍宮信仰」 pp.9-25
- ・松村文「付喪神の誕生—その背景と特異性—」 pp.26-34
- ・藤原宏夫「石見地方における諸神楽の比較音楽研究—大太鼓のリズム分析による神楽の系統分類序説—」 pp.35-49
- ・中上明「神楽能「十羅」・「日御碕」について」 pp.50-73

10号「白石昭臣会長追悼号」(2005.2)

- ・石塚尊俊「白石昭臣君を悼む」 p.1
- ・酒井董美「白石昭臣会長を悼む」 pp.2-3
- ・三村泰臣「西中国山地と瀬戸内海の神楽」 pp.4-15
- ・和多須三男「樹体告知の民俗誌(1) トートとコトの日一種類にこめられた柳の呪力の源泉一」 pp.16-38
- ・中村芳雄「赤崎町における地名の由来——考察一」 pp.39-41
- ・靄理恵子「日本民俗学とフェミニズム」 pp.42-50
- ・品川知彦「平穩無事を志向する宗教性—宝永期・明和期の伊勢神宮への集団参詣現象をめぐって—」 pp.51-59
- ・坂田友宏「小伊津の調査メモから」 pp.60-66
- ・「会員新刊の紹介：坂田友宏著『因伯民俗歳時記』(川上迪彦)、石塚尊俊著『出雲平野とその周辺』(内藤正中)、酒井董美著『山陰のわらべ歌』(小泉凡)、門脇尚子著『生きる』(浅沼博)、石塚尊俊著『暮らしの歴史』(酒井董美)」 pp.67-70

11号 (2006.2)

- ・石塚尊俊「山陰民俗の思い出」 pp.1-10
- ・松浦亮「出雲地方における「盆踊り」考」 pp.11-34
- ・福代宏「鳥取の山岳信仰—二つの国峰の比較から—」 pp.35-40
- ・和多須三男「樹体告知の民俗誌(2) 山椒の木の下で歌うなかれ—セツの日と田植儀礼前後の山椒を中心に—」 pp.41-55
- ・石塚尊俊「くらしの証言—七、八十年前の出雲平野の暮らし—」 pp.57-64
- ・金藤洋一郎「大正時代末期の農村の子供」 pp.65-71

12号 (2007.2)

- ・エリツァ・マリノヴァ「日本の異類婚譚における人間の世界と異界の対立—ヨーロッパとの比較—」 pp.1-16
- ・松村文「付喪神と日本の宗教観」 pp.17-23
- ・田文優華「鳥取県西部地方における新方言「へん」についての研究—発生と使用拡大の要因を探る—」 pp.24-37
- ・和多須三男「樹体告知の民俗誌(3)大歳の火と檜そして木地師—木と火と灰のフォークローア—」 pp.38-50
- ・川上迪彦「伯耆日野町の年中行事」 pp.51-63
- ・多田房明「森脇太一生誕百年記念行事によせて」 pp.64-67
- ・「会員新刊の紹介：石塚尊俊著『顧みる八十余年—民俗採訪につとめて—』(酒井董美)、川上迪彦著『米子の民話散歩』(酒井董美)」 pp.68-69

13号 (2008.3)

- ・酒井董美「お別れの言葉」 p.1
- ・浅沼博「勝部正郊先生を偲ぶ」 p.2
- ・小泉凡「イギリスに渡った出雲の護符」 pp.3-25
- ・和多須三男「樹体告知の民俗誌(4)シンデレラの涙と栃と女の力—栃の実ひろい・灰作り・栃合わせ—」 pp.26-39
- ・大谷めぐみ「島根半島四十二浦巡礼の展開と性格—一畑薬師信仰と習合した浦巡礼—」 pp.40-53
- ・原島知子「鳥取の愛宕信仰」 pp.54-64
- ・喜多村正「石見地方のコウジユウ(講中)—島根県瑞穂町の事例—」 pp.65-82
- ・川上迪彦「因幡に残る呪い歌」 pp.83-90
- ・平賀英一郎「若林一弘」柳田国男覚書」 pp.91-124
- ・浅沼博「昭和十年代の稲作り」 pp.125-126

14号 (2009.3)

- ・石井正己「(講演) 郷土研究と出雲—清水兵三と高木敏雄・柳田国男—」 pp.1-14
- ・藤原宏夫「羽須美の神楽—島根県邑智郡邑南町羽須美における神楽の歴史—」 pp.15-26
- ・廣江正幸「出雲地方における参道石造狛犬についての調査報告」 pp.27-43
- ・多田房明「石見銀山遺跡の世界遺産登録調査から—港町・鞆ヶ浦と沖泊の民俗—」 pp.44-58
- ・酒井董美「出雲地方の荒神分布」 pp.59-66
- ・佐藤忠吉・(反訳・筆録) 喜多村正「木次町宇谷の農村生活」 pp.67-71
- ・「新刊紹介：川上迪彦著『伯耆に生きて—私が見聞した人々の生活文化—』(酒井董美)、小泉時・小泉凡著『文学アルバム小泉八雲』(酒井董美)、石原洋三著『東中国山地・木地師の世界』(坂田友宏)、西中国山地民具を守る会編『民具を用いた労働慣行—実践民俗学を提唱して四〇年—』(浅沼政誌)」 pp.72-74
- ・酒井董美「元理事・川上迪彦先生を悼む」 pp.75-76

15号 (2010.3)

- ・小川直之「(講演) 折口民俗学の可能性—今、なぜ折口信夫なのか—」 pp.1-16
- ・喜多村正「部落という語の変遷」 pp.17-37
- ・山崎亮「石見地方の「森神」をめぐって—明治初年「神社書上帳」を手がかりに—」 pp.39-59
- ・土田拓「伝承としてのハマバタケ—山陰地方海岸砂地調査ノート—」 pp.61-73
- ・錦織稔之「出雲神楽における七座の〈勧請(神降し)〉について—近世役指帳に見える〈注連行事〉の分析から—」 pp.75-87
- ・中田眞治「銀山附役人阿部光格の日記に見る石見銀山社会の暮らし」 pp.89-109
- ・「新刊紹介：酒井董美著『向かい山猿が三匹とおる—石見の民話・民謡・わらべ歌—』(神本晃)、酒井董美・藤

井浩基著『島根の民謡—歌われる古き日本の暮らしと文化—』（小泉凡）、坂田友宏著『とっとり民俗文化論』（喜多村正） pp.110-112

4 山陰民俗学会『中国地方における民俗の地域性』[山陰民俗学会結成五十周年記念セミナーの記録]、1999年

- ・勝部正郊「開会の辞」 pp.1-2
- ・坂田友宏「民俗の分布から見た山陰の地域」 pp.3-20
- ・白石昭臣「出雲・石見・安芸の民俗」 pp.21-36
- ・佐藤米司「吉備地方の民間伝承」 pp.37-47
- ・日野西眞定「地域の宗教と民俗—とくに真言寺院の年中行事について—」 pp.49-78
- ・藤井昭「山陰・山陽の民俗—安芸を中心として—」 pp.79-104
- ・金谷匡人「ならしの力と民俗の応用力—防長の場合—」 pp.105-126
- ・石田寛「山陰民俗を見る眼、差異と共通点」 pp.127-148
- ・乗本吉郎「過疎の実態調査メモから」 pp.149-170
- ・坂田友宏・白石昭臣・佐藤米司・日野西眞定・藤井昭・金谷匡人・石田寛・乗本吉郎・石塚尊俊「総合討議」 pp.171-196
- ・石塚尊俊「閉会の辞」 p.197
- ・「参考資料」 pp.199-213
- ・「関連論文」 pp.215-294
 - 日野西眞定「平家落人伝承と熊野（ゆうや）」 pp.217-245
 - 石塚尊俊「明治改革以前における村氏神の地域性—近世地誌による中国地方十二カ国の比較—」 pp.247-294

※関連図書

○山陰民俗学会編『傳承 上下』（国書刊行会、1981年）

○石塚尊俊編『山陰の祭祀伝承』（山陰民俗学会、1997年）

○山陰民俗学会編『山陰民俗叢書』（島根日日新聞社、1995-2000年）

- ①『柳田國男 抄』1995.6
- ②『民俗の地域性』1996.9
- ③『生業と用具』1995.12
- ④『村と家・人生』1998.8
- ⑤『葬・墓・祖霊信仰』1997.8
- ⑥『家の神・村の神』1998.2
- ⑦『年中行事』1995.9
- ⑧『祭りの組織と行事』1999.3
- ⑨『神楽と風流』1996.4
- ⑩『言語伝承』1997.3
- ⑪『古老の生活体験』1999.6
- ⑫『探訪記・人物誌』2000.1

[付記] 本稿の作成は、「2010年度島根大学法文学部山陰研究センター・人文社会諸科学の基盤形成事業」の一環でもある。

（やまざき まこと 島根大学法文学部教授）